

商経学科経済専攻

【教養科目】

(人文)			
文学の世界	1	経済政策	153
日本の歴史	1	社会政策	153
こころの科学	2	社会思想	154
芸術論	2	民法	154
かごしまカレッジ教育	3	商法	155
(社会)			
日本国憲法	3	産業心理学	155
法学概論	4	簿記論Ⅰ	156
社会学	4	経営学総論	157
キャリアデザイン	5	〈情報基礎〉	
(自然)			
数学の世界	5	情報科学概論	157
物理の世界	6	文書作成実習	158
生物の科学	6	応用文書処理	158
化学の世界	7	PCデータ活用	159
食生活と健康	7	PCデータ活用実習	159
(総合)			
平和論	8	PCアプリケーション実習	160
環境問題	8	(専攻専門科目)	
かごしま教養プログラム	9	〈経済理論〉	
かごしまフィヨルドスクール	9	日本経済論	161
(外国語科目)			
英語Ⅰ(C)	14~15	財政学	161
英語Ⅰ(C)	14~15	農業経済論	162
英語Ⅰ(C)	14~15	金融論	162
英語Ⅰ(C)	14~15	経済学史	163
英語Ⅱ(C)	19~20	経済学特講Ⅰ	163
英語Ⅱ(C)	19~20	法学特講	164
英語Ⅱ(C)	19~20	簿記論Ⅱ	164
英語Ⅱ(C)	19~20	〈国際環境〉	
英語Ⅱ(C)	19~20	国際経済論	165
英語Ⅲ(D)	22	アジア経済論	165
英語Ⅲ(E)	23	国際関係論	166
英語Ⅲ(F)	23	比較文化	166
英語Ⅲ(G)	24	アジア事情	167
英語Ⅲ(H)	24	ヨーロッパ事情	167
英語Ⅳ(C)	26	国際経済特講	168
英語Ⅳ(D)	26	〈地域政策〉	
英語Ⅳ(E)	27	地域経済論	168
英語Ⅳ(F)	27	地域産業政策	169
英語Ⅳ(G)	28	地方自治論	169
異文化コミュニケーション(英語)	29	労働法	170
異文化コミュニケーション(中国語)	29	地域研究特講	170
中国語Ⅰ(C)	33	地方自治法	171
中国語Ⅰ(E)	34	〈演習・実習〉	
中国語Ⅰ(H)	35	基礎演習	225
中国語Ⅱ(C)	37	演習Ⅰ	225
中国語Ⅱ(E)	38	演習Ⅱ	225
中国語Ⅱ(H)	39	卒業研究	225
中国語Ⅲ	40	社会活動	226
中国語Ⅳ	40	企業研修	226
(スポーツ・健康科目)			
スポーツ・健康論	41		
生涯スポーツ実習Ⅰ(E)	42		
生涯スポーツ実習Ⅱ(E)	44		
(情報科目)			
情報リテラシーⅠ(E)	47		
情報リテラシーⅡ(E)	50		

【専門科目】

(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
現代社会論	151
社会哲学	151
経済学	152
行政法	152

商経学科経営情報専攻

【教養科目】

(人文)			
文学の世界	1	経済政策	153
日本の歴史	1	社会政策	153
こころの科学	2	社会思想	154
芸術論	2	民法	154
かごしまカレッジ教育	3	商法	155
(社会)			
日本国憲法	3	産業心理学	155
法学概論	4	簿記論Ⅰ	156
社会学	4	経営学総論	157
キャリアデザイン	5	〈情報基礎〉	
(自然)			
数学の世界	5	情報科学概論	157
物理の世界	6	文書作成実習	158
生物の科学	6	応用文書処理	158
化学の世界	7	PCデータ活用	159
食生活と健康	7	PCデータ活用実習	159
(総合)			
平和論	8	PCアプリケーション実習	160
環境問題	8	(専攻専門科目)	
かごしま教養プログラム	9	〈経営理論〉	
かごしまフィールドスクール	9	簿記論Ⅱ	172
(外国語科目)			
英語Ⅰ(C)	14~15	経営管理論	172
英語Ⅰ(C)	14~15	経営組織論	173
英語Ⅰ(C)	14~15	管理会計論	173
英語Ⅰ(C)	14~15	原価計算	174
英語Ⅱ(C)	19~20	国際経営論	174
英語Ⅱ(C)	19~20	経営学特講Ⅰ	175
英語Ⅱ(C)	19~20	経営学特講Ⅱ	175
英語Ⅱ(C)	19~20	〈情報分析〉	
英語Ⅱ(C)	19~20	比較経営論	176
英語Ⅲ(D)	22	経営分析	176
英語Ⅲ(E)	23	企業行動科学	177
英語Ⅲ(F)	23	経営戦略論	177
英語Ⅲ(G)	24	企業論	178
英語Ⅲ(H)	24	財務会計論	178
英語Ⅳ(C)	26	マーケティング論	179
英語Ⅳ(D)	26	〈情報活用〉	
英語Ⅳ(E)	27	経営工学	179
英語Ⅳ(F)	27	コンピュータ会計	180
英語Ⅳ(G)	28	応用データ活用	180
異文化コミュニケーション(英語)	29	プログラミング	181
異文化コミュニケーション(中国語)	29	情報論特講	181
中国語Ⅰ(D)	33	〈演習・実習〉	
中国語Ⅰ(E)	34	基礎演習	225
中国語Ⅰ(H)	35	演習Ⅰ	225
中国語Ⅱ(D)	37	演習Ⅱ	225
中国語Ⅱ(E)	38	卒業研究	225
中国語Ⅱ(H)	39	社会活動	226
中国語Ⅲ	40	企業研修	226
中国語Ⅳ	40		
(スポーツ・健康科目)			
スポーツ・健康論	41		
生涯スポーツ実習Ⅰ(F)	42		
生涯スポーツ実習Ⅱ(F)	44		
(情報科目)			
情報リテラシーⅠ(F)	47		
情報リテラシーⅡ(F)	50		

【専門科目】

(専門基礎科目)

〈基礎理論〉	
現代社会論	151
社会哲学	151
経済学	152
行政法	152

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界	担当者	木戸 裕子・轟 義昭・岩本 晃代・土肥 克己・中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 旅と文学</p> <p>【概要】 日頃本をあまり読まないで、「文学」なんて自分の生活とは無関係だと思っていませんか。また、「文学」には興味はあるけれど、なんだか難しそうだと思っていませんか。そのような皆さんに少しでも「文学」に親しんでもらおうと、担当教員5名は、「旅と文学」をキーワードにして、日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解きます。</p> <p>【到達目標】 日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解き、「文学」に親しみをもってもらおう。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし。適宜、プリントを配布します。</p> <p>(2) 各教員が必要に応じて教室で指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション, 旅の苦しみ, 旅の楽しみ:『万葉集』の中の旅</p> <p>第2回 一人旅, 二人旅, 家族の旅:『源氏物語』『更級日記』『赤染衛門集』</p> <p>第3回 お江戸の旅, 薩摩の旅:『垂邑詩集(すいゆうししゅう)』</p> <p>第4回 旅にまつわる中世イギリス文学作品:『カンタベリー物語』と『マンデヴィル旅行記』</p> <p>第5回 旅にまつわる18~19世紀イギリス文学作品:『ガリバー旅行記』と『タイムマシン』</p> <p>第6回 旅にまつわる詩1:西脇順三郎の詩</p> <p>第7回 旅にまつわる詩2:丸山薫の詩</p> <p>第8回 旅にまつわる詩3:新川和江の詩</p> <p>第9回 中国文学における「旅と文学」(1)</p> <p>第10回 中国文学における「旅と文学」(2)</p> <p>第11回 中国文学における「旅と文学」(3)</p> <p>第12回 放浪するギリシア・ローマの英雄たち:『オデュッセイア』と『アエネイス』</p> <p>第13回 放浪する地中海世界の恋人たち:古代ギリシア恋愛小説の世界</p> <p>第14回 ビカレスク小説・空想旅行譚の先駆け:『サテュリカ』、『黄金の驢馬』、『本当の話』</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポートの提出(75点)および講義に関する毎回の感想・意見等(25点)で評価します。レポートは5名が課したのものから3つを選ぶかたちになります。		

(注) 文学科を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	日本の歴史	担当者	下原 美保
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の文化—特に美術—について、トピックスごとに紹介する。</p> <p>【概要】 日本美術の特徴について、I 絵画(物語絵と絵巻・仏画・詩画軸と水墨画・狩野派・土佐派・浮世絵)・II 仏像(仏様の世界・藤原時代までの仏像・鎌倉時代の仏像)・III 暮らしと美術(茶の湯と美術・薩摩焼)の3点から紹介する。講義では、教科書とともにスライドやビデオなどを用い、具体的な作品鑑賞を行う。この際、作品の見方や考え方についても解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本文化—絵画・彫刻(仏像)・工芸—の特徴及び鑑賞のポイントを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『すぐわかる日本の美術』(田中日佐夫監修 東京美術 平成11年)</p> <p>(2) 『日本美術のこぼれ案内』(日高薫 小学館 2003年)</p> <p>『日本のやきもの 薩摩』(渡辺芳郎 淡交社 2003年)</p> <p>『新潮世界美術辞典』(新潮社 昭和60年1月)</p>		
授業スケジュール	<p>■ 授業スケジュール</p> <p>第1回 :オリエンテーリング</p> <p>第2回~第9回 :I 絵画について 1) 物語絵と絵巻 2) 仏画 3) 詩画軸と水墨画 4) 狩野派土佐派 5) 浮世絵</p> <p>第10回~第12回 :II 仏像について 1) 仏様の世界 2) 藤原時代までの仏像 3) 鎌倉時代の仏像</p> <p>第13回~第14回 :III 暮らしと美術 1) 茶の湯と美術 2) 薩摩焼</p> <p>第15回 :まとめ</p>		
成績評価の方法	講義ごとの感想文(40%)及びレポート(60%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらう実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方・考え方を養うことを目標とする。 ② 自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：自己開示と自己呈示</p> <p>第5回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第6回 社会心理学③：集団の影響</p> <p>第7回 社会心理学④：人とのつき合い方</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：ストレスへの対処</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	感想・質問などのミニレポート提出：40%、試験あるいはレポートで評価：60%		

(注) 受講希望数が上限を超える場合は、履修年次を考慮した上で受講制限を行う場合がある。

授業科目	芸術論	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】普段、鑑賞することの少ない芸術作品に触れ、芸術を味わう楽しさを経験する。</p> <p>【概要】映像表現された作品を中心に、一般的に馴染み深い作品（デザインのジャンルも含めて）を引用し、様々な視点からその芸術性を探っていく。</p> <p>【到達目標】何気なく眺めていた芸術作品の美しさを再認識し、モノを観る真の目を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布。テキストは使用しない。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。講義中、PowerPoint・DVDを活用する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 立役」 歌舞伎の魅力と小道具</p> <p>第3回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 女形」</p> <p>第4回 「ショートフィルム」 世界のショートフィルム</p> <p>第5回 「錯視」 古典的錯視作品、身の周りの錯視・だまし絵</p> <p>第6回 「舞妓」 京都舞妓の衣装・髪型・小物・芸・歴史</p> <p>第7回 「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」 その流行と時代背景</p> <p>第8回 「世界のコマーシャル・フィルム」 世界各国のコマーシャルの比較</p> <p>第9回 「造形作家の制作風景」 創造する喜びと生みの苦しき</p> <p>第10回 「日本の伝統芸能・落語」 落語の小道具、歴史</p> <p>第11回 「日本の伝統芸能・人形浄瑠璃」 太夫・三味線・人形遣いの役割</p> <p>第12回 「美術館見学」 講義期間中の美術展を鑑賞・見学する</p> <p>第13回 「チャールズ・チャップリン 1」</p> <p>第14回 「チャールズ・チャップリン 2」</p> <p>第15回 「まとめと試験、あるいはレポート」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)、試験あるいはレポート (70%) で評価。		

(注) 受講登録数が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する</p> <p>【概要】「書く力」では、レポートの構成要素と表現を知り、データ・資料・情報に基づいた論証型のレポートを作成する力を養成する。「話す力」では、少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。</p> <p>【到達目標】(1)「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方・聞き方を学び、実際話し合いの場で実践できる。(2)グループの話し合いの結果を、簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。(3)レポートの構成要素を理解し、組み立てにそって論理的なレポートが書ける。(4)レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し、レポートの中で使うことができる。(5)事実と意見を区別し、データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 話し合いに対する心構え 第3回 レポートとは何か 第4回 レポートの資料について 第5回 事実と意見について 第6回 情報カードの書き方、引用の書き方 第7回 書誌情報の書き方 第8回 文型・文体について 第9回 図表の読み方と説明の仕方 第10回 アウトラインの作り方 第11回 メモ付きアウトラインの作り方 第12回 パラグラフの書き方 第13回 レポート第1回提出 第14回 レポート第2回提出 第15回 レポート最終チェック		
成績評価の方法	(1)グループ活動の報告についての成績30%、(2)レポート作成の途中で提出した課題についての成績30%、(3)最終レポートの成績40%で総合評価する。		

(注) 受講者数は、20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生																														
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の睿智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小栗実編『新検証・日本国憲法』法律文化社 2007年 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回：憲法概論</td> <td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td> </tr> <tr> <td>第2回：基本権総論</td> <td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td> </tr> <tr> <td>第3回：包括的権利</td> <td>・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について</td> </tr> <tr> <td>第4回：精神的自由権(1)</td> <td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td> </tr> <tr> <td>第5回：精神的自由権(2)</td> <td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について</td> </tr> <tr> <td>第6回：経済的自由権</td> <td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td> </tr> <tr> <td>第7回：受益権</td> <td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td> </tr> <tr> <td>第8回：社会権(1)</td> <td>・生存権、環境権、教育を受ける権利について</td> </tr> <tr> <td>第9回：社会権(2)</td> <td>・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について</td> </tr> <tr> <td>第10回：国会(1)</td> <td>・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について</td> </tr> <tr> <td>第11回：国会(2)</td> <td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td> </tr> <tr> <td>第12回：内閣</td> <td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td> </tr> <tr> <td>第13回：裁判所</td> <td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td> </tr> <tr> <td>第14回：財政</td> <td>・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、予算について</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめと試験</td> <td></td> </tr> </table>			第1回：憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第2回：基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第3回：包括的権利	・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について	第4回：精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第5回：精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について	第6回：経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第7回：受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第8回：社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利について	第9回：社会権(2)	・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について	第10回：国会(1)	・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について	第11回：国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第12回：内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第13回：裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第14回：財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、予算について	第15回：まとめと試験	
第1回：憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																
第2回：基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																
第3回：包括的権利	・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について																																
第4回：精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																
第5回：精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について																																
第6回：経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																
第7回：受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																
第8回：社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利について																																
第9回：社会権(2)	・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について																																
第10回：国会(1)	・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について																																
第11回：国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																
第12回：内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																
第13回：裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																
第14回：財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、予算について																																
第15回：まとめと試験																																	
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言の記録 (10%) を基準に、総合的に評価する。																																

(注) 教職必修

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	法学概論	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人を裁くという権威を盾に近寄り難いイメージのある「法」を、その起源から探り、昔話や映画、文学などを通して身近なところに存在する「法的なもの」に触れる。</p> <p>【概要】民事訴訟と刑事訴訟の構造の違いを知り、市民が参加する裁判員裁判という場が「裁き」の場であることをまず示す。その上で、なぜ法が発生したのか、その起源を探り、文学や映画をとおして、あらゆる所に法的なものがあること、私たちの思考に刷り込まれている法の概念を拾い出してみる。</p> <p>【到達目標】様々な角度から「法的なもの」に触れることによって「法的思考」を磨き、日常生活の中によくある事例を、法的な思考で判断できることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	特に定めない。		
授業スケジュール	第1回～5回 「裁判」の構造 第1回 法とは何か 第2回 民事訴訟 第3回 刑事訴訟 第4回 裁判員制度(1) 第5回 裁判員制度(2) 第6回～14回 リーガルマインドを磨く 第6回 「裁く」とはどういうことか：刑事司法と民事司法の関係 第7回 刑罰は何のためにあるのか：犯罪認定のプロセス 第8回 刑罰の起源：復讐から儀式、儀式から刑罰へ 第9回 法の起源：法はどこから来て、どこに行くのか 第10回 法の正体と法文化、法文化と国民性 第11回 権利と義務の関係：誰かのものである(所有)ということの意味 第12回 契約の自由と信義則 第13回 法の解釈と屁理屈の違い：シェークスピア『ヴェニスの商人』を題材に 第14回 解釈の原則：「リーガルマインド (Legal Mind)」(法的思考)というもの 第15回 予備日		
成績評価の方法	講義中に書いてもらうレポート40点 + 最後のレポート60点		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	社会学	担当者	斉藤 悦則
	〔履修年次〕 全学年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学の基本概念を学ぶ</p> <p>【概要】社会学の諸概念を道具として、身の回りの諸現実を新たな視点で見つめ直してみる。そうすると、いままで当たり前のように見えていたものが、意外に「変なこと」「怪しいこと」のように見えてくる。</p> <p>【到達目標】常識に囚われて、硬直していた発想が、社会学を学べば柔軟になる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 社会学のおもしろさ……潜在機能 第2回 不良になろう……ラベリング 第3回 まなざしの地獄……一般化された他者 第4回 情報に踊らされる……予言の自己成就 第5回 格差のメカニズム……準拠集団 第6回 空気を読めってか?……他者志向 第7回 血液型とか信じる?……自由からの逃走 第8回 愛のジレンマ……社会的交換理論 第9回 わかりやすさの畏……疑似環境 第10回 オーラが消える……複製技術革命 第11回 コミュニティへの回帰……ゲメインシャフト 第12回 学校に行くとバカになる……制度化 第13回 セクシーとは何か……粋の構造 第14回 事なかれ主義……官僚制 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文(100%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式及びワークショップ	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味がなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>※1年生は原則として全員受講すること。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>(講師陣)平成22年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(7月23日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師：森脇丈子(生活科学科准教授)、西村道子(株式会社 昂) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月27,28日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師：田原武志((株)アシップ)、石原美貴(石原興業(株) 石原荘) 前田幸一((株)浜島印刷)、丸田真悟(NPO 法人かごしまアートネットワーク) 小林陸夫(大学生協九州事業連合) ・第3期(12月24日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師：北川隆巴(京セラ(株))、秋葉重登(鹿児島相互信用金庫) 宇都泰礼((株)健康家族)、原田忍((株) エム・ディ・エス) 本学卒業生8人(中学校教員、栄養士など) ・第4期(2月1日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師：疋田京子(商経学科准教授)、学生部学生課職員 <p>※23年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート2回(100%)		

授業科目	数学の世界	担当者	寛山 榮助
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】数学の世界を理解するための根拠について</p> <p>【概要】数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し、推論する思考過程を身につける能力を培い育てていくことです。一方、数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。数学は、知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は前者に力点を置くことが望ましい。すなわち『数学とはなにか』、『何のために数学を学ぶか』等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。</p> <p>【到達目標】1 教科としての数学と学問としての数学について理解を深める。 2 人格形成ならびに社会生活に役立つ数学的ものの見方・考え方を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 量的なことを考慮して、特に定めない</p> <p>(2) 興味、関心、意欲養成に適宜提示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第1章 数学という学問 1 数学の要請：数学的帰納法</p> <p>第2回 ・デカルトの発見的方法</p> <p>第3回 2 数学の関数的表現 ・近似多項式の微分表現</p> <p>第4回 ・マクローリンの定理とテーラー展開の魅力</p> <p>第5回 3 数学の源と数「0」の発見 ・整数の素数分解の一意性</p> <p>第6回 ・完全数 ・友愛数 ・婚約数の定義とその発見</p> <p>第7回 4 三平方の定理の古典数学としての魅力 ・ピタゴラス数の折り紙表現</p> <p>第8回 5 フェルマーの定理と現代数学</p> <p>第9回 第2章 経済や社会の動向を探る現代数学 1 行列と次元 ・ケーキ作り</p> <p>第10回 2 クラメルの定理 ・三元連立一次方程式</p> <p>第11回 3 経営や生産性の効率性 1 マルコフの推移行列</p> <p>第12回 2 推移行列とマーケット・シェア</p> <p>第13回 第3章 現代数学をどう理解するか 1 数学の論証性</p> <p>第14回 2 ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界</p> <p>第15回 「まとめと試験」(定期考査、自分で考える「数学の世界」について小論)</p>	<p>★履修状況調査と感想文</p> <p>★試験と小論</p>	
成績評価の方法	定期試験60%、興味・関心・態度、感想文40%で評価する。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	物理の世界	担当者	藤井 伸平																
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】普段、私たちは歩くという動作について考える（意識する）ことはありませんが、凍った道路は滑ってとても歩きにくいことに気づきます。このときあらためて靴と路面の間の摩擦が歩くという動作に重要な役割を果たしていることに気づきます。このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、2, 3の実験も行う予定です。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる</p>																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (適宜プリントを配布) (2) 藤城敏幸著「生活の中の物理」東京教学社。 そのほか、適宜授業中に紹介。																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回 無量大数と科学的記法</td> <td>第9回 焚き火</td> </tr> <tr> <td>第2回 地球を持ち上げる</td> <td>第10回 絶対零度</td> </tr> <tr> <td>第3回 動いている地球</td> <td>第11回 宇宙は膨張している</td> </tr> <tr> <td>第4回 万物は引き合う</td> <td>第12回 近視、遠視、老眼</td> </tr> <tr> <td>第5回 ロケットはなぜ飛ぶ</td> <td>第13回 光の三原色と色の三原色</td> </tr> <tr> <td>第6回 ヨットのはなし</td> <td>第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ</td> </tr> <tr> <td>第7回 質量はエネルギー</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回 水の特異な性質</td> <td></td> </tr> </table>			第1回 無量大数と科学的記法	第9回 焚き火	第2回 地球を持ち上げる	第10回 絶対零度	第3回 動いている地球	第11回 宇宙は膨張している	第4回 万物は引き合う	第12回 近視、遠視、老眼	第5回 ロケットはなぜ飛ぶ	第13回 光の三原色と色の三原色	第6回 ヨットのはなし	第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ	第7回 質量はエネルギー	第15回 まとめ	第8回 水の特異な性質	
第1回 無量大数と科学的記法	第9回 焚き火																		
第2回 地球を持ち上げる	第10回 絶対零度																		
第3回 動いている地球	第11回 宇宙は膨張している																		
第4回 万物は引き合う	第12回 近視、遠視、老眼																		
第5回 ロケットはなぜ飛ぶ	第13回 光の三原色と色の三原色																		
第6回 ヨットのはなし	第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ																		
第7回 質量はエネルギー	第15回 まとめ																		
第8回 水の特異な性質																			
成績評価の方法	レポート (100%)																		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	生物の科学	担当者	塚原 潤三																														
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脊椎動物の進化とヒトのなりたち</p> <p>【概要】本講義では、ヒトのなりたちを理解するために、脊椎動物の進化の流れを概観し、次いで霊長類のグループの進化を取り上げ、その中でヒトがどのように進化し、ヒトとしての特性を獲得してきたかについて、生物学の側面から解説する。</p> <p>【到達目標】脊椎動物の進化の流れを理解し、その中でヒトがどのように形成されてきたかを理解する。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無し (あらかじめプリント集を配布する) (2) 『ヒトの進化・・・新しい考え』ロジャー・レウイン著 岩波書店 『脊椎動物の進化』E. H. コルバート&M. モラレス著 築地書館																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回 地球史概観</td><td>: 気候変動や大陸移動</td></tr> <tr><td>第2回 地質年代の測定</td><td>: 相対的年代測定と絶対的年代測定</td></tr> <tr><td>第3回 進化の不思議な大爆発</td><td>: カンブリア紀における脊椎動物の出現</td></tr> <tr><td>第4回 脊椎動物の特徴と概観</td><td>: 脊髄神経系の発達</td></tr> <tr><td>第5回 魚類の進化</td><td>: 水中動物の発達</td></tr> <tr><td>第6回 両生類の進化</td><td>: 陸上生活への移行過程</td></tr> <tr><td>第7回 は虫類の進化</td><td>: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応</td></tr> <tr><td>第8回 ほ乳類の進化</td><td>: 子育ての革新的進化</td></tr> <tr><td>第9回 霊長類の進化</td><td>: サル類の共通の特性とヒトへのつながり</td></tr> <tr><td>第10回 ヒト進化の研究の歴史</td><td>: ヒト化石との出会い</td></tr> <tr><td>第11回 2足歩行に伴う身体変化(1)</td><td>: 下半身の構造と機能の進化</td></tr> <tr><td>第12回 2足歩行に伴う身体変化(2)</td><td>: 上半身の構造と機能の進化</td></tr> <tr><td>第13回 脳の進化と言語の発達</td><td>: 脳の発達と機能分化</td></tr> <tr><td>第14回 情報伝達と社会形成</td><td>: ヒトはなぜ群れをつくるのか</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめと試験</td></tr> </table>			第1回 地球史概観	: 気候変動や大陸移動	第2回 地質年代の測定	: 相対的年代測定と絶対的年代測定	第3回 進化の不思議な大爆発	: カンブリア紀における脊椎動物の出現	第4回 脊椎動物の特徴と概観	: 脊髄神経系の発達	第5回 魚類の進化	: 水中動物の発達	第6回 両生類の進化	: 陸上生活への移行過程	第7回 は虫類の進化	: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応	第8回 ほ乳類の進化	: 子育ての革新的進化	第9回 霊長類の進化	: サル類の共通の特性とヒトへのつながり	第10回 ヒト進化の研究の歴史	: ヒト化石との出会い	第11回 2足歩行に伴う身体変化(1)	: 下半身の構造と機能の進化	第12回 2足歩行に伴う身体変化(2)	: 上半身の構造と機能の進化	第13回 脳の進化と言語の発達	: 脳の発達と機能分化	第14回 情報伝達と社会形成	: ヒトはなぜ群れをつくるのか	第15回	まとめと試験
第1回 地球史概観	: 気候変動や大陸移動																																
第2回 地質年代の測定	: 相対的年代測定と絶対的年代測定																																
第3回 進化の不思議な大爆発	: カンブリア紀における脊椎動物の出現																																
第4回 脊椎動物の特徴と概観	: 脊髄神経系の発達																																
第5回 魚類の進化	: 水中動物の発達																																
第6回 両生類の進化	: 陸上生活への移行過程																																
第7回 は虫類の進化	: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応																																
第8回 ほ乳類の進化	: 子育ての革新的進化																																
第9回 霊長類の進化	: サル類の共通の特性とヒトへのつながり																																
第10回 ヒト進化の研究の歴史	: ヒト化石との出会い																																
第11回 2足歩行に伴う身体変化(1)	: 下半身の構造と機能の進化																																
第12回 2足歩行に伴う身体変化(2)	: 上半身の構造と機能の進化																																
第13回 脳の進化と言語の発達	: 脳の発達と機能分化																																
第14回 情報伝達と社会形成	: ヒトはなぜ群れをつくるのか																																
第15回	まとめと試験																																
成績評価の方法	筆記試験 (80%) と小論文 (20%)																																

(注) 生活科学科を除く。

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	化学の世界	担当者	井余田 秀美・木下 朋美
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から、身の回りの物質や現象、生活に潤いをもたらす茶や香りについて、講義を行う。</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探索し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 日本茶インストラクター協会編、『日本茶のすべてがわかる本』、農文協 財団法人 日本ホテル教育センター編、『世界・お茶の基本』、プラザ出版</p>		
授業スケジュール	<p>1 身近な物質 (井余田) 第1回 自然の恩恵 第2回 化学の基礎 第3回 生活と化学</p> <p>2 身近な現象 (井余田) 第4回 物質の変化 第5回 光と色 第6回 エネルギーと環境</p> <p>3 茶と香りの化学 (木下) 第7回 茶に隠された化学を探る 第8回 様々な茶を生み出した歴史 茶製法の変遷 第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (1) 第10回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (2) 第11回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工 (ブレンド・焙煎) 第12回 茶の味お淹れ方次第 溶出成分の特徴 第13回 茶の品質を見極める 官能検査と化学分析 第14回 味をも作り出す 香りの特性と役割 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポート		

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	食生活と健康	担当者	倉元 綾子・多田 司・木下 朋美・有村 恵美
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた栄養、運動や休養・睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれるほど存在し、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらのなかには十分に検証されないまま提供される有害なものも少なくない。本科目では、健康で、安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 健康な食生活：イントロダクション (倉元, 多田, 木下, 有村) : 健康とは何か? 食生活が健康に及ぼす影響 (有村)</p> <p>第2回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素 (有村)</p> <p>第3回 健康な食生活：食品の特性 (木下)</p> <p>第4回 健康な食生活：食の安全 (木下)</p> <p>第5回 私たちの食生活トピックス1：ワークショップ (倉元)</p> <p>第6回 私たちの食生活トピックス2：ワークショップ (倉元)</p> <p>第7回 私たちの食生活トピックス3：ワークショップ (倉元)</p> <p>第8回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方1 (多田)</p> <p>第9回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方2 (多田)</p> <p>第10回 健康・栄養情報：ダイエット・サプリメント (有村)</p> <p>第11回 健康な食生活：あなたの食生活チェック (有村)</p> <p>第12回 健康な食生活：食事のバランス・食品選択の方法 (有村)</p> <p>第13回 健康な食生活：生活習慣病 (有村)</p> <p>第14回 健康な食生活：休養・睡眠・運動 (有村)</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは (有村)</p>		
成績評価の方法	試験、レポート、授業ごとの小論文、発表内容によって総合的に評価する 各担当者の成績を集計して、荷重平均。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	平和論	担当者	福田 忠弘・森田 豊子・船津 潤・疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、日本国内や国際社会で生起する諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。</p> <p>【概要】 現在の世界では、国家間の戦争だけでなく、民族・宗教対立による紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力など、到底平和とは呼べない状態が続いている。日本国内においては、憲法改正、教育基本法の改正など、国家権力の強化が進行している。本年度の平和論は、世界の平和ならざる状況を理解することを目的とする。特に焦点をあてるのは、暴力の様々な形態、「他者」への理解（特にイスラーム社会）、スリランカを事例にした国家建設の光と陰、様々な人権侵害についてである。</p> <p>【到達目標】 グローバル社会でおきている紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力などについての現状を認識し、その原因について説明できることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 平和論の方法：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田） 第2回 暴力の多様性（1）：暴力という概念について（福田） 第3回 暴力の多様性（2）：国際社会における紛争について視聴覚資料を使用（福田） 第4回 パレスチナ問題：パレスチナ問題の歴史と現状について（森田） 第5回 9・11後の世界：イラクとアフガニスタンについて（森田） 第6回 イスラーム原理主義：イスラーム原理主義の成り立ちと現状について（森田） 第7回 イスラームと女性：イスラーム原理主義における女性の権利をめぐる問題について（森田） 第8回 世界におけるイスラーム教徒：欧州、米国、日本におけるイスラーム教徒の問題について（森田） 第9回 民族紛争の構造：スリランカの事例について（船津） 第10回 平和への葛藤：スリランカの事例について（船津） 第11回 憲法9条の源流をさぐる：永久平和構想と非戦の制度化に向けて（疋田） 第12回 憲法9条の戦後史：憲法9条はどのように議論されてきたか（疋田） 第13回 平和と人権：暴力の連鎖を断つための様々な試み（疋田） 第14回 平和の多様性について：積極的平和という概念を中心に（福田） 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する（100％）。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	環境問題	担当者	相場 慎一郎・井余田 秀美・野村 俊郎・曾宮 和夫
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 環境問題を様々な角度から考える</p> <p>【概要】 環境問題を、森林（相場）、化学（井余田）、自動車産業（野村）、環境保護行政（曾宮）の四つの視点から考える</p> <p>【到達目標】 環境に関する複眼的思考を養う</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 総論：環境問題の複眼的考察 第2回 森林（1）：森林の役割 第3回 森林（2）：森林と環境 第4回 化学（1）：汚染物質1 第5回 化学（2）：汚染物質2 第6回 化学（3）：汚染物質3 第7回 化学（4）：汚染物質4 第8回 自動車（1）：ハイブリッド 第9回 自動車（2）：EV 第10回 自動車（3）：LCVとULCV 第11回 自動車（4）：発電と蓄電 第12回 環境保護行政（1）：総論 第13回 環境保護行政（2）：屋久島 第14回 環境保護行政（3）：奄美 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。2泊3日の夏季集中授業で、講義とグループ学習（チューターの支援あり）を行います。さらに、夜間はディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要（平成23年度については未定。若干の変更の予定があります。）		
成績評価の方法	<p>講義ノート（レポート以外の部分） 30%、グループ討論・発表内容（40%）、レポート（30%）として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。</p>		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地産する。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要（平成23年度は未定。若干の変更の予定があります。）		
成績評価の方法	<p>地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。</p> <p>実地調査等30%（学習目標①）、グループ討論・発表20%と提案内容20%（学習目標②）、レポート30%（学習目標③）として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。</p>		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語 I (A)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日常会話で使える英語表現を学ぶ。</p> <p>【概要】スヌーピーの漫画をきっかけにして、日常生活の様々な場面で使える英語のキーワードや表現を学ぶ。重要な文法事項についても適宜復習したい。</p> <p>【到達目標】さまざまな状況での英会話練習を通して、リスニング力や発音力を向上させるとともに、文法知識を再確認する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	今泉志奈子&井上彰 <i>Let's Speak English with SNOOPY!</i> (英宝社, 2004)		
授業スケジュール	第 1回 UNIT 1 第 2回 UNIT 2 第 3回 UNIT 3 第 4回 UNIT 4 第 5回 UNIT 5 第 6回 UNIT 6 第 7回 UNIT 7 第 8回 UNIT 8 第 9回 UNIT 9 第 10回 UNIT 10 第 11回 UNIT 11 第 12回 UNIT 12 第 13回 UNIT 13 第 14回 UNIT 14 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (30%) , 小テスト (30%) , オーラル試験 (40%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習</p> <p>ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成</p> <p>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 1~2回 ガイダンスおよび練習法 (シャドーイングなど) の解説 第 3~4回 A New Neighbour 第 5~6回 To the Rescue 第 7~8回 Dinner for Two 第 9~10回 Change of a Dress 第 11~12回 A Long Weekend 第 13回 復習 第 14回 朗読試験 第 15回 まとめと試験 【注意】LL 教室を使っている授業なので, 遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70%。試験は朗読と筆記の二種類。		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	塚崎 香織
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初歩的な英文を読んで、英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、テーマごとに関連する語彙を習得する。また、リスニングの練習も同時に行い、リーディングとリスニングを関連づける。</p> <p>【概要】必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、初歩的な英文の内容を把握できる。初歩的な英文を聞いて、内容が把握できる。英語を読んだり聞いたりするのに必要な初歩的な語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Neil J. Anderson & Kawamata Masayuki / <i>Elementary Skills for Reading</i> (成美堂) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 He's the Boss: Scanning の練習 第 2回 Working Holiday: Understanding Main Ideas の練習 第 3回 Doing Something Different: Recognizing Purpose の練習 第 4回 The Learning Center: Skimming の練習 第 5回 Sepak Takraw: Reading for Details の練習 第 6回 Are Sports Important?: Making Inferences の練習 第 7回 A Postcard from Hong Kong: Understanding the Order of Events の練習 第 8回 The Burj Al Arab Hotel: Scanning の練習 第 9回 Table Manners: Comparing and Contrasting の練習 第 10回 Homestay Diary: Making Inferences の練習 第 11回 Ask Emma: Skimming の練習 第 12回 Peer Pressure: Making and Checking Predictions 第 13回 A Real Life Superhero: Understanding the Order of Events の練習 第 14回 The Tiffin Men: Scanning の練習 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	森 孝晴
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニングとスピーキングの基礎力の養成</p> <p>【概要】実際に英語で話すことを楽しみ、笑える話を聞いて英語を聞き取る集中力を高めていく。</p> <p>【到達目標】文法や発音に多少の誤りがあっても恥ずかしがらずに話せるようになり、英語を聞きとる基本的な姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Masakazu Someya, Fred Ferrasci & Paul Murray <i>Humorous Homestay Stories</i> 「リスニングで楽しむホームステイ体験記」 南雲堂 1400円+税 (2)		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について。リスニングとスピーキングのコツと注意点について 第 2回 テキスト Unit 1. グループでの英会話 第 3回 テキスト Unit 2. グループでの英会話 第 4回 テキスト Unit 3. グループでの英会話 第 5回 テキスト Unit 4. グループでの英会話 第 6回 テキスト Unit 5. グループでの英会話 第 7回 テキスト Unit 6. グループでの英会話 第 8回 テキスト Unit 7. グループでの英会話 第 9回 テキスト Unit 8. グループでの英会話 第 10回 テキスト Unit 9. グループでの英会話 第 11回 テキスト Unit 10. グループでの英会話 第 12回 テキスト Unit 11. グループでの英会話 第 13回 テキスト Unit 12. グループでの英会話 第 14回 テキスト Unit 13. グループでの英会話 第 15回 まとめと口頭試験		
成績評価の方法	口頭試験 (90%) + 授業への参加状況 (10%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 前半・鹿児島を英語で紹介 後半・オーストラリアの紹介を通して、基礎的英語運用能力を培う。</p> <p>【概要】 前半は、鹿児島の英文での紹介を基に、よりよい簡単な英語での紹介文を追加する。後半は、オーストラリアの文化、生活などを扱ったビデオ教材を軸に、基礎的英語運用能力の養成を図る。テキストの中の基礎的文法事項に関しては、随時説明を行う。</p> <p>【到達目標】 鹿児島の英語での紹介、およびオーストラリアの文化紹介のテキストを中心に、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。なおコミュニケーション力をつけるのに必要な基礎的文法力の再確認も行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Kumiko T. Sato, Steve Lia, <i>Australia, Here We Come!</i> Asahi Press (2) 随時プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction (はじめに) 第2回 Street Life (街の生活) 第3回 Public Transport—Commuting (公共交通機関—通勤・通学) 第4回 University Life—The University of Sydney (大学生活—シドニー大学) 第5回 Australian Home (オーストラリアの家) 第6回 Supermarket—Coles (スーパーマーケット—コールス) 第7回 Daily Life (日常生活) 第8回 Taronga Zoo—Australian Animals (タロンガ動物園—オーストラリアの動物) 第9回 Leisure Time at the Park (海辺でのレジャー) 第10回 Education Programs in Taronga Zoo (タロンガ動物園体験プログラム) 第11回 Leisure Time at the Park (公園でのレジャー) 第12回 Australian Family (オーストラリアの家庭) 第13回 Discussion (ディスカッション) 第14回 Discussion (ディスカッション) 第15回 Examination (定期試験)</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%), レポート(60%)で評価する。		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 音読練習</p> <p>【概要】 半ページくらいの長さのパスセージをできるだけ多く音読することで、表現力、速読・多読力、リスニング力を向上させ、文章構造が理解できるよう訓練する。本文に出て来た文法事項についても適宜解説したい。</p> <p>【到達目標】 やや長めの文章の構造を初見でも捉えて、スムーズに音読できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	多湖純佳, 安田孝子, 石橋和代 <i>Let's Read Aloud!</i> (南雲堂, 2005)		
授業スケジュール	<p>第1回 Unit 1-1, 1-2, 2-1 第2回 Unit 2-2, 3-1, 3-2 第3回 Unit 4-1, 4-2, 5-1 第4回 Unit 5-2, 6-1, 6-2 第5回 Unit 7-1, 7-2, 8-1 第6回 Unit 8-2, 9-1, 9-2 第7回 Unit 10-1, 10-2, 11-1 第8回 Unit 11-2, 12-1, 12-2 第9回 Unit 13-1, 13-2, 14-1 第10回 Unit 14-2, 15-1, 15-2 第11回 Unit 16-1, 16-2, 17-1 第12回 Unit 17-2, 18-1, 18-2 第13回 Unit 19-1, 19-2, 20-1 第14回 Unit 20-2, 21-1, 21-2 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (30%), 小テスト (30%), オーラル試験 (40%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】 (1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習</p> <p>ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成</p> <p>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】 日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 1～2回 ガイダンスおよび練習法 (シャドーイングなど) の解説 第 3～4回 A New Neighbour 第 5～6回 To the Rescue 第 7～8回 Dinner for Two 第 9～10回 Change of a Dress 第 11～12回 A Long Weekend 第 13回 復習 第 14回 朗読試験 第 15回 まとめと試験 【注意】 LL 教室を使つての授業なので, 遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70%。試験は朗読と筆記の二種類。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日 4限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 特に基礎的な文法力修得に力点を置きながら, リスニング力, 発音力, 文法力を総合的に鍛えることで, スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】 英語のリスニング, 文法, 読解を総合的に学習することで, バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習, 基本的, 発展的な文法事項の確認, 「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法) を意識した速読理解の練習などを通して, 総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において, 相手の情報や考えを理解でき, プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Power-Up English <Basic> JACET リスニング研究会著 NAN'UN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4回 Events & Festivals (未来形) 第 5回 Directions & Locations (前置詞) 第 6回 Occupations (代名詞) 第 7回 Instructions (命令文) 第 8回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9回 Service Requests (現在完了) 第 10回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11回 Public Signs (助動詞 1) 第 12回 Sports (助動詞 2) 第 13回 History (受動態) 第 14回 Sightseeing (比較) 第 15回 期末試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%), 提出物 (10%), 授業への取組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日 5限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語の基礎力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。また各種英語検定試験に対応できるよう補足資料で発展的な問題にも取り組みます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのある文脈において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で情報や考えを表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Power-Up English <Basic> JACET リスニング研究会著 NAN'UN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4回 Events & Festivals (未来形) 第 5回 Directions & Locations (前置詞) 第 6回 Occupations (代名詞) 第 7回 Instructions (命令文) 第 8回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9回 Service Requests (現在完了) 第 10回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11回 Public Signs (助動詞1) 第 12回 Sports (助動詞2) 第 13回 History (受動態) 第 14回 Sightseeing (比較) 第 15回 期末試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) , 提出物 (10%) , 授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、リスニングのコツを学びながら、ナチュラルスピードの口語英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現やフレーズを身につけていくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ・パラレルリーディングなどの発音練習で、楽しみながら英語の自然な音声変化やリズムに慣れ、「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半ではアメリカ旅行と留学を題材としたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話で使われる英語表現やフレーズを場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として、映画を利用したリスニング演習を取り入れる予定です。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とする。</p>		
(1) テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> . 出版社: マクミラン・ランゲージハウス		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第 1回: オリエンテーション / 授業内容と進め方について 第 2回: Do You Have a Reservation, Ma'am? / ホテルでのチェックインに使う表現 第 3回: Would You Like Soup or Salad? / レストランでの食事の注文に使う表現 第 4回: Where's the Fitting Room? / ショッピングに使う表現 第 5回: Good to See You! / 挨拶に使う表現 第 6回: I Enjoyed My Stay / ホテルでのチェックアウトに使う表現 第 7回: You Are One of the Family Now / ホームステイ先での会話表現 第 8回: I Want to Help! / 申し出る・申し出を受ける表現 第 9回: When Do I Have to Return This? / 図書館での本の貸し出しに使う表現 第 10回: Would You Like to Join Us? / 人を誘う・誘われる際の表現 第 11回: Let's Keep in Touch, OK? / 別れに使う表現 第 12回: 映画を利用したリスニング演習 (1) 第 13回: 映画を利用したリスニング演習 (2) 第 14回: 映画を利用したリスニング演習 (3) 第 15回: まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、読む・聞く・書く・話す実用的な英語を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日常生活で必要とされる英語のリスニング力とスピーキング力を向上させていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Donald Freeman, Kathleen Graves, Linda Lee 『ICON』 International Communication Through English, McGranhill ISBN 007-124406-9 税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨN 自己紹介 コース説明 第 2回 Unit 1: Is Korean food spicy? 第 3回 Unit 2: Where is volleyball popular? 第 4回 Unit 3: The nightlife is great! 第 5回 Unit 4: It's terrific dance music 第 6回 Unit 5: I don't like horror movies 第 7回 Unit 6: Do you like to eat out? 第 8回 Unit 7: When do you have lunch? 第 9回 Unit 8: I never get enough sleep! 第 10回 Unit 9: Did you go to the gym? 第 11回 Unit 10: Is there an ATM around here? 第 12回 Unit 11: I want to buy a CD 第 13回 Unit 12: That's a nice jacket! 第 14回 Revision 第 15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc.</p> <p>【概要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>ENGLISH FIRS^THAND 1</u> Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introductions and Asking Questions 第 2回 Describing People 第 3回 Schedules and Frequency 第 4回 Describing locations 第 5回 Giving Directions 第 6回 Past activities 第 7回 Review 第 8回 Talking about the Past 第 9回 Getting Information 第 10回 Plans 第 11回 Predictions 第 12回 Shopping 第 13回 Following Instructions 第 14回 Personal Interests and Opinions 第 15回 Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of the course is to provide students with a solid grounding of English vocabulary in a wide variety of topics</p> <p>【概要】 Communicating in English requires a wide vocabulary. Students will be able to use this class to begin self-directed studies based around topics of interest and relevance. Students gain confidence with the support they initially receive in pair work with fellow students and they will also be able to work at their own pace to maximize their language development.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for this course would be students who take responsibility for their own learning outside of the class room having initially built up skills and confidence inside it.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Oxford Picture Dictionary Second Edition English/Japanese		
授業スケジュール	第 1回 Greetings and exchanging personal information 第 2回 Times dates and weather 第 3回 Prepositions and locations 第 4回 Describing people 第 5回 Families 第 6回 Daily routines and life events 第 7回 Mid-term self-study and/or review 第 8回 Food preparation and safety. Ordering. 第 9回 Health and wellness. 第 10回 City streets, maps, directions. 第 11回 Jobs and occupations 第 12回 Leisure and entertainment 第 13回 The wider world 第 14回 Review and/or self-study 第 15回 Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 20% Class work 50% Final oral presentation 30%		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	James Scott
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Talking about one's own ideas and feelings</p> <p>【概要】 Students will share their ideas regarding a wide range of topics</p> <p>【到達目標】 To improve students' skills in communicating their ideas and feelings in English</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Active Skills for Communication by Chuck Sandy and Curtis Kelly. Publisher: Heinle (Cengage Learning)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course. 第 2回 Class Album 第 3回 Favorite Photos 第 4回 Personal Goals 第 5回 Self-Improvement Plan 第 6回 Believe It or Not 第 7回 Where I grew up 第 8回 Bargain Shopper 第 9回 Flea Market 第 10回 第 11回 第 12回 (Note: Each of the themes referred to above will probably take two class sessions) 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法	Class participation, Oral Examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語で鹿児島を紹介し、国際的なコミュニケーション力の養成。 Using English to introduce familiar aspects of life in Kagoshima and to enhance international communication skills.</p> <p>【概要】学生は日本とその文化、特に鹿児島での生活について学びたがっているアメリカ人 ペンパルとの会話をノートに書き留めていきます。 Students maintain notebooks as they develop a dialogue with an American pen pal who seeks to learn about Japan, its customs, and specifically life in Kagoshima.</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、同世代のペンパルとのやりとりによって、意思疎通をスムーズに出来るようにする。情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。To practice non-academic English and basic writing skills by developing a sustained dialogue with an English speaker of a similar age and interests. Grammar is studied in the context of a cultural exchange.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無印良品ノート (21×14.5 cm) (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回: 紹介 Introduction 第2回~第6回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 第7回: 小テスト(文法問題や内容把握等) 第8回~第14回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 15回: 小テスト(文法問題や内容把握等)		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の割合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのあるコンテキストにおいて、相手の情報や考えを理解でき、つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)、不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Buckingham & Whitney, <i>Passport to New Places</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 第6回 Unit 5 第7回 Review unit 第8回 Unit 1-5 quiz 第9回 Unit 6 第10回 Unit 7 第11回 Unit 8 第12回 Unit 9 第13回 Unit 10 第14回 Review unit 第15回 Unit 6-10 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の割合 (35%), クイズ/授業での発表 (65%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of this course is acquiring the language skills to function in a college setting, being able to explain to others one's situation and ask relevant questions of others to aid conversation.</p> <p>【概要】 Using topics centered around daily college life lessons are centered on a basic structure, allowing students to create many meaningful sentences. Students learn how to avoid making the kinds of mistakes which typically hinder conversation such as long silences and overly short answers.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for this course would be students with a good grounding in structures and vocabulary that are relevant to their situation, acquired through enjoyable and focused drilling.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Conversations in class New edition Alma publishing		
授業スケジュール	第1回 Introductions 第2回 Sounding natural- Silence and conversation 第3回 Daily life 第4回 University life 第5回 Directions 第6回 Skills 第7回 Mid-term Review and/or self-study 第8回 Family 第9回 Travel 第10回 Free time 第11回 Money 第12回 Hometown 第13回 Future 第14回 Review and/or self-study 第15回 Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 70% Final oral presentation 30%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Angela Buckingham Miles (Raven, David Williamson) 『GET REAL』 Macmillan ISBN 978-4-7773-6075-8 税込 2,400円		
授業スケジュール	第1回 It's my birthday on July 3 rd 第2回 What do people do at Christmastime? 第3回 Why don't we have a party? 第4回 I'll have soup, please 第5回 I like jazz a lot. 第6回 I hate horror movies. 第7回 Review 1 第8回 How far is it to the airport? 第9回 How high is Mount Everest? 第10回 He went to Hollywood in 1996. 第11回 I got engaged in January. 第12回 How much rice do you want? 第13回 How much paper do you recycle? 第14回 Review 2 第15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc.</p> <p>【概要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>ENGLISH FIRSTHAND 1</u> Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第1回 Introductions and Asking Questions 第2回 Describing People 第3回 Schedules and Frequency 第4回 Describing locations 第5回 Giving Directions 第6回 Past activities 第7回 Review 第8回 Talking about the Past 第9回 Getting Information 第10回 Plans 第11回 Predictions 第12回 Shopping 第13回 Following Instructions 第14回 Personal Interests and Opinions 第15回 Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	English II (C)	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 1st year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press) (2)		
授業スケジュール	第1回-第7回 Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations 第8回 Review Quiz 第9回-第14回 Key topics from later chapters of the textbook Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town 第15回 Final Oral Review		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(A)	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語のコミュニケーション能力を向上する授業 【概要】 前期のつづきで、リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。 【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Buckingham & Whitney, <i>Passport to New Places</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 11 第3回 Unit 12 第4回 Unit 13 第5回 Unit 14 第6回 Unit 15 第7回 Review unit 第8回 Unit 11-15 quiz 第9回 Unit 16 第10回 Unit 17 第11回 Unit 18 第12回 Unit 19 第13回 Unit 20 第14回 Review unit 第15回 Unit 16-20 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の度合（35%）、クイズ/授業での発表（65%）		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(B)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 この授業のテーマは、ショートドラマや映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニングを中心にコミュニケーションに必要な英語力をつけていくことです。 【概要】 授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ（リズム練習）・パラレルリーディング（音声を聞きながらの音読）・シャドーイングなどの口頭練習で、楽しみながら英語の音声変化やリズム・イントネーションに慣れ、「自然な発音聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。 授業の後半では、ニューヨークに住む6人の男女が繰り広げるショートドラマによるリスニング演習で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常生活で役立つ会話表現や語彙を学習していきます。 さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習を取り入れ、ストーリーを楽しみながら、よりナチュラルな「生きた自然な英語」のリスニング演習に取り組みます。 【到達目標】 日常生活になじみのある場面において、ナチュラルスピードに近い自然な英語での発話の意図を理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目指します。		
(1) テキスト	Susan Stempleski 著, <i>World Link Video Course Intro</i> . 出版社: トムソン		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第1回: オリエンテーション / 授業内容と進め方について 第2回: Please Call me Dave. / 自己紹介 第3回: Where is it? / 英語でゲーム 第4回: A Cool Gift / ショッピングで使う表現 (1) 第5回: Takeshi's Food Video / 食べ物・食習慣を英語で表現 第6回: Meals & Likes and Dislikes / 食習慣についての簡単なインタビューを聴く 第7回: Welcome to New York! / 住生活・友達との再会 第8回: Dear Mum and Dad / 日常生活を英語で表現 (1) 第9回: Mike's "Busy" Day / 日常生活を英語で表現 (2) 第10回: Times and Schedules / 日常生活についての簡単なインタビューを聴く 第11回: What do I wear to the party? / ショッピングで使う表現 (2) 第12回: 映画を利用したリスニング演習 (1) 第13回: 映画を利用したリスニング演習 (2) 第14回: 映画を利用したリスニング演習 (3) 第15回: まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	塚崎 香織
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリスの暮らしと文化に関する読み物を通して、日英の文化の違いについて学ぶ。英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、各章のテーマに関連した語彙を習得する。リーディング、リスニング、ライティングに関連づけた活動を行う。</p> <p>【概要】主に、必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、英文の内容を把握できる。英文を聞いて、内容を把握できる。自分が伝えたいことを簡単な英文で表現できる。教科書のテーマごとに関連した語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Terry O'Brien, Miwa Uhara and Hiroshi Kimura / <i>Gateway to Britain</i> (南雲堂) 特になし		
授業スケジュール	第1回 Check In and Work Out: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第2回 What Will the Weather Be Like?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第3回 A London without Red Buses?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第4回 Back to the Future: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第5回 Shop'n'Chat: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第6回 More Than Just a Post Office: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第7回 Off the Beaten Path: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第8回 Pubs in Decline: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第9回 Dining Out Diversity: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第10回 Afternoon Tea: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第11回 The Beatles Are Forever: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第12回 Football: Sport or Business?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第13回 The Royal Family or TV Melodrama?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第14回 Preserving Britain: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)」		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 (初中級～中級レベル)</p> <p>【概要】(1)ビデオ等の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材等で日常の会話で使用される生の英語にふれ、英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで、英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材及び副教材を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し、情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント等による (2) 授業中に適宜指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2～13回 シャドーイング等によるリスニング・スピーキングの訓練 第14回 朗読試験 第15回 まとめと試験 <p>【注意】LL教室を使つての授業なので、遅刻は厳禁です。</p>		
成績評価の方法	平常点30%と試験70%。試験は朗読と筆記の二種類		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン デイビット
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English. 【概要】 アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主におこなう。このコースでは、生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように、興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより、リスニングスキルを向上させる。 【到達目標】 4つのコミュニケイティブ・スキル (reading, writing, listening, speaking) を上達させる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定		
授業スケジュール	第1回 Interests and Hobbies 第2回 Health 第3回 Holidays 第4回 Shopping 第5回 Movies 第6回 Sports 第7回 Travel 第8回 Hotel 第9回 Social Issues 第10回 Culture 第11回 Appearances 第12回 Work 第13回 Memories 第14回 Restaurant 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (80%) + 宿題, 授業中に行う小テストの成績 (20%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(F)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。 【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。 【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略（言い換え、繰り返し、強調等）をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	Tom Kenny & Linda Woo 『Nice Talking With You I 』 ISBN 976-0-521-18808-1 Cambridge University Press 税込 2,100 円		
授業スケジュール	第1回 Introductions 第2回 Family 第3回 Shopping 第4回 Food 第5回 Music 第6回 Free time 第7回 Review 1 第8回 Travel 第9回 Sports 第10回 Friends 第11回 Work 第12回 Movies 第13回 Personal tech 第14回 Review 2 第15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	James Scott
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This class will focus almost exclusively on speaking and listening</p> <p>【概要】 Students will spend most of their time telling and listening to stories about themselves and others.</p> <p>【到達目標】 To improve students' speaking and listening skills</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) <i>Tell Me Your Stories</i>, by Bob Jones and David Coulson (2) Publisher: MacMillan Language House</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction. 第2回 Talking about movies. 第3回 Talking about bad luck and minor accidents. 第4回 Describing our feelings about things that have happened. 第5回 Talking about happy events and achievements. 第6回 Showing interest and responding to other peoples stories. 第7回 Making comments while listening / adding a story of our own. 第8回 Talking about a time when one bad thing happened after another. 第9回 Talking about one' s childhood. 第10回 Telling interesting stories about people we know. 第11回 Adding interesting stories to conversation / Explaining words we don` t know. 第12回 (Each topic will probably require about one and a half class periods) 第13回 第14回 第15回</p>		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(H)	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多様な題材を扱った英文を精読することで、英文を正確に速読する力を養う。</p> <p>【概要】 英文を読むとき、意味のまとまり（フレーズ）ごとに区切って、前から後ろへと英語の語順で読解していく方法を「フレーズ・リーディング」といいます。英文を「戻り読み」せず、「フレーズ・リーディング」することで、意味のまとまりを意識し、より正確にまたより迅速に英文を読解することができるようになります。授業では「フレーズ・リーディング」を基本的読解法と位置付け、身近な話題から時事問題までを扱った多種多様な英文を題材に、幅広い語彙力を養いながら多読、速読の技術を修得します。</p> <p>【到達目標】 多様なジャンルの英文を、より迅速により深く読めることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 田村朋子 他著 <i>Phrase Reading</i> (センテージラーニング) (2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 Extreme Ironing 第3回 Food and Culture 第4回 Life after Death? 第5回 Addicted to the Mall 第6回 The Working Poor 第7回 A Child Hero 第8回 Don't Be Fooled Again 第9回 The Government Department of Dating and Marriage 第10回 Undercover Marketing 第11回 A Healthy Diet for Everyone 第12回 Anger around the World 第13回 Online Dating Goes Mainstream 第14回 リーディング力UP講座 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（80%），提出物（10%），授業への取組み態度（10%）で評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	ジェイムズ スコット
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、中級程度(レベルで言えば、TOEIC 500~650 英検 2級)のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能(スキル)を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素(文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力)をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回: Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回: "Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回: "Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回: "Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回: "Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回: "Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回: "Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回: "In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回: "In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回: "Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回: "Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回: "Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回: 定期試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + クラス活動への参加(30%)を基準に、総合的に評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>The main theme of this class is listening and speaking skills in a variety of day-to-day interactions.</p> <p>【概要】</p> <p>In this class the students will be presented with a range of listening and speaking activities in a variety of situations. The course will focus on developing the skills needed to successfully communicate in and comprehend day-to-day situations.</p> <p>【到達目標】</p> <p>The basic aim of this course is to revise and improve the students listening and speaking skills.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NORTH STAR Focus on Listening and Speaking – Basic L. Frazier and R. Mills Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 Jobs</p> <p>第2回 The Country</p> <p>第3回 The City</p> <p>第4回 Money</p> <p>第5回 Shopping</p> <p>第6回 Questioning styles</p> <p>第7回 Review</p> <p>第8回 Sports and Competition</p> <p>第9回 Male and Female Roles</p> <p>第10回 Food</p> <p>第11回 Vacations</p> <p>第12回 Polite Requests</p> <p>第13回 Staying Healthy</p> <p>第14回 Agreement and Disagreement</p> <p>第15回 Review</p>		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final listening and oral test.		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)	担当者	ジェイムズ スコット
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、中級程度（レベルで言えば、TOEIC 500～650 英検 2 級）のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回：Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回："Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回："Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回："Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回："Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回："Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回："Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回：定期試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + クラス活動への参加 (30%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」にふれながら、リスニングとスピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。</p> <p>【概要】映画を使った英語学習には、(1) ストーリーを楽しみながら英語を学べる、(2) オーセンティックな(本物の)英語のシャワーを受けながら英語学習ができる、(3) 会話表現・フレーズとそれを使う場面・状況をセットで学習できる、などの利点があります。</p> <p>授業では、1本の映画(『ゴースト』<サスペンス・ラブストーリー>)を14回に分けて使用し、ストーリーを楽しみながら、ナチュラルスピードの英語の聞き取り演習に取り組んでいくとともに、日常生活で使われる口語表現や語彙を学習していきます。さらに、英語のセリフをモデルとしたパラレルリーディング(音声を聞きながらの音読練習)やロールプレイで、英語らしいリズムやイントネーションで話せるように発音練習をしていきます。</p> <p>また、日・英セリフの対比や、英語セリフ・日本語セリフ作成演習を通して、ことばの表現力を高めていきます。</p> <p>【到達目標】日常生活のなじみのある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる/自分の意思を表現できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1) テキスト	(1) 教師作成のプリントを毎回使用します。		
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を使用></p> <p>第1回：授業内容と進め方 / 映画を使った英語学習について</p> <p>第2回：The Loft / 友人同士の会話(新居)</p> <p>第3回：Unchained Melody / 同僚との会話(オフィス)</p> <p>第4回：Life After Death / 恋人との会話(路上)</p> <p>第5回：Willy Lopez / 友人との会話(自宅)</p> <p>第6回：Spiritual Adviser / 初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第7回：The Truth / 初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第8回：Molly's Apartment / 知人との会話(自宅)</p> <p>第9回：The Police Station / 警察官との会話(警察)</p> <p>第10回：Rita Miller / 顧客との会話(銀行)</p> <p>第11回：Revenge / 友人との会話(自宅)</p> <p>第12回：The Penny / 知人との会話(自宅)</p> <p>第13回：With All my Heart / 知人との会話(自宅)</p> <p>第14回：Last Chance / 恋人との会話</p> <p>第15回：まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み (20%) + 復習のための小テスト・セリフ作成課題など (40%) + 定期試験 (40%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(E)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 ビジネスで使える英語を学ぶ。 【概要】 オフィスでの簡単な英会話から、電話の応対、FAX・電子メールのやり取りをアクティビティを通して学ぶ。 【到達目標】 限定された、職場において必要とされる英語を理解し、日常の業務を適切に遂行できる英語力を養成する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	Tae Kudo 『First Steps to Office English』 Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-180-5 税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨン 自己紹介 コース説明 第 2 回 It's nice to meet you. 第 3 回 What does 'FYI' mean? 第 4 回 May I speak to Mr.Yoshioka? 第 5 回 May I take a message? 第 6 回 I have a headache. 第 7 回 I have another appointment at 9:30. 第 8 回 Would you like something to drink? 第 9 回 Let's go out for a drink. 第 10 回 How was your weekend? 第 11 回 The sales department is on the 3 rd floor. 第 12 回 Turn right on Main Street. 第 13 回 First, press the start button. 第 14 回 I'd like to check in. 第 15 回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 期末テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 テーマは、TOEIC 500 点以上の取得、英検 2 級取得を目指すように、学生の語彙力を増やし、英文法を再確認させ、長文読解のコツを身に付けさせて、英語学習への意欲を高める。 【概要】 授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回 2 章ずつ進むので、予習が必要となる。また、授業中に語彙力・文法力・並べ換えによる作文力・メール文の読解力を高める問題に取り組みさせる (プリント学習)。担当者が解説を試み、間違った箇所をチェックさせることで、受講生の英語力のアップをはかり、学習意欲が高まるような工夫を凝らす。リスニング問題にも取り組めるように LL 教室を使用する。 【到達目標】 受講生が TOEIC 500 点以上の取得あるいは英検 2 級の取得を目指すような英語力を身に付けることを到達目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小池直己・佐藤誠司『5分間 実践英文法』南雲堂 適宜、プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方の説明) 第 2 回 Unit 1~2 動詞 第 3 回 Unit 3~4 不定詞 第 4 回 Unit 5~6 分詞 第 5 回 Unit 7~8 動名詞 第 6 回 Unit 9~10 代名詞 第 7 回 Unit 11~12 関係詞 第 8 回 Unit 13~14 前置詞 第 9 回 Unit 15~16 接続詞・時制 第 10 回 Unit 17~18 形容詞 第 11 回 Unit 19~20 副詞 第 12 回 Unit 21~22 比較 第 13 回 Unit 23~24 助動詞、受動態 第 14 回 Unit 25~26 仮定法、語法 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 予習を含む授業への取り組み (40%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G)	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英文読解力と語彙力の養成 【概要】 4年制大学編入を視野に入れて、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読む練習をする。 【到達目標】 構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 英検2級・TOEFL 対策長文問題集, 吉田晴世, 吉田信介, 松柏社。その他参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 英文読解演習(1) 第3回 英文読解演習(2) 第4回 小テスト(1) 第5回 英文読解演習(3) 第6回 英文読解演習(4) 第7回 英文読解演習(5) 第8回 英文読解演習(6) 第9回 小テスト(2) 第10回 英文読解演習(7) 第11回 英文読解演習(8) 第12回 英文読解演習(9) 第13回 英文読解演習(10) 第14回 英文読解演習(11) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト (40%) + 試験 (30%) + 授業への参加状況 (30%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション (英語)	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで研修を行う。授業は英語研修とアメリカ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2010年度ハワイ研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/3(金)～9/19(日) ・参加者 14名 ・研修費用 約29万円(授業料, 往復航空券, 滞在費, 朝食と昼食の食費, 保険料) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学コミュニティカレッジでの研修内容の説明, 海外渡航に伴う種々の事柄の説明, 前もって課題(レポート作成)の指示。</p> <p>海外研修 9月を予定(約2週間), 現地の大学で午前中に英語の授業, 午後に文化に関する授業(フラダンス, レイ作り, ハワイの文化, ハワイの植物), その他学外授業としての見学。</p> <p>事後指導 帰国後に総括</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌, 体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2010年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程: 8月28日(土)～9月11日(土) [15日間] ・参加者: 13名(文学科日本語日本文学専攻5名, 英語英文学専攻2名, 商経学科経済専攻3名, 経営情報専攻3名) ・費用: 約14万円(授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。</p> <p>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題(レポート作成)の指示などです。</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題, および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語Ⅰ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 (2) 在間進他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1回 ドイツ（文化圏）とドイツ語について、文字・アルファベット 第2回 発音と綴り字 第3～5回 第0課 第6～8回 第1課 第9～10回 第2課 第11～13回 第3課 第14回 復習と試験準備 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験90%、授業への参加状況10%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 (2) 在間進他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1～3回 第4課 第4～6回 第5課 第7～9回 第6課 第10～12回 第7課 第13～14回 復習と試験準備 第15回 まとめと定期試験		
成績評価の方法	筆記試験90%、授業への参加状況10%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	小澤 晃
	[履修年次] 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「はじめてのバリー新・改訂版」, 大津俊克他著, 朝日出版社 (2) 特に必要としない		
授業スケジュール	第1回～第3回 あいさつの表現, 名詞, 冠詞, 縮約冠詞 第4回～第6回 主語人称代名詞, être, 所有形容詞 第7回～第9回 提示の表現, avoir, 形容詞 第10回～第12回 第一群規則動詞, 否定文 第13回～第14回 人称代名詞強勢形, il y a 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(期末試験) (100%)		

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	小澤 晃
	[履修年次] 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「はじめてのバリー新・改訂版」, 大津俊克他著, 朝日出版社(「フランス語Ⅰ」からの継続使用) (2) 特に必要としない		
授業スケジュール	第1回～第3回 指示形容詞, 疑問文, prendre 第4回～第6回 非人称構文, aller, venir, 疑問形容詞 第7回～第9回 中性代名詞, 命令法, faire, 疑問副詞 第10回～第12回 疑問代名詞, 補語人称代名詞, finir 第13回～第14回 複合過去形, 比較級, 最上級 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(期末試験) (100%)		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1) 【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。 【到達目標】 中国語検定準 4 級程度 (後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン、声調、短母音 第 2回 子音、複合母音、-n, -ng を伴う母音 第 3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国音で読む 第 4回 決まり文句 第 5回 第 1 課 (1) 第 6回 第 1 課 (2) 第 7回 第 2 課 (1) 第 8回 第 2 課 (2) 第 9回 第 3 課 (1) 第 10回 第 3 課 (2) 第 11回 第 4 課 (1) 第 12回 第 4 課 (2) 第 13回 第 5 課 (1) 第 14回 第 5 課 (2) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への参加状況 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻、英語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション、声調、短母音 第2回 子音、複合母音、-n, -ngを伴う母音 第3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国音で読む 第4回 決まり文句 第5回 第1課 (1) 第6回 第1課 (2) 第7回 第2課 (1) 第8回 第2課 (2) 第9回 第3課 (1) 第10回 第3課 (2) 第11回 第4課 (1) 第12回 第4課 (2) 第13回 第5課 (1) 第14回 第5課 (2) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への参加状況 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『緑日はとてにもぎやか』(スリム版) (郁文堂)		
授業スケジュール	<p>第1回 発音篇 I~II 中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng 第2回 発音篇 III 中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音 第3回 発音篇 IV 音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化 第4回 ~第5回 本文篇 第1課 庙会很热闹……………述語が形容詞の文 “吗”と“不” 第6回 ~第7回 本文篇 第2課 买东西……………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的” 第8回 ~第9回 本文篇 第3課 他们都是留学生……………“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞 第10回~第11回 本文篇 第4課 天坛在哪儿……………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文 “几”と“多少” 第12回~第13回 本文篇 第5課 他会开车……………助動詞—可能 願望 義務 連動文 第14回 まとめと映画鑑賞 第15回 試験</p> <p>*状況に応じてスケジュールを変更することがあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) (授業形態) 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース 【概要】 中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 1 ビンインが読めるようになる。 2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「始めよう!中国語」 白水社 南雲智, 趙暉 著 (2) 授業で紹介する		
授業スケジュール	第1回 発音 声調 第2回 " " 第3回 人称代名詞 指示代名詞 第4回 疑問詞 第5回 名詞判断文 第6回 動詞 助動詞 第7回 “的” について 第8回 形容詞述語文 第9回 助動詞 第10回 日付 曜日 時刻の言い方 第11回 “有” 構文 第12回 “在” 構文 第13回 比較文 第14回 反復疑問文 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容, 復習・課題の状況 50%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) (授業形態) 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文 I 【概要】 1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい, それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして, 書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば, 外国語もそれほど難しくはないものです。 もちろん外国語ですから最初は発音から入り, それから徐々に単語を増やしていきます。そのほか, 理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう, 中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき, 中国語はじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため, 中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級, 漢語水平考試 HSK 基礎1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 発音 (1) 声調と母音 第3回 発音 (2) 子音 第4回 発音 (3) 発音のまとめ 第5回 発音 (4) 表記の規則 第6回 作文 (1) 名前 (1) 第7回 作文 (2) 名前 (2) 第8回 作文 (3) 数字 (1) 第9回 作文 (4) 数字 (2) 第10回 作文 (5) 簡単な動詞 (1) 第11回 作文 (6) 簡単な動詞 (2) 第12回 作文 (7) 意思表示 (1) 第13回 作文 (8) 意思表示 (2) 第14回 作文 (9) 意思表示 (3) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(G)	担当者	中筋 健吉																																								
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式																																								
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>																																										
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼子子他『縁日はとてにぎやか』(スリム版) (郁文堂)																																										
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>発音篇</td><td>I～II</td><td>中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>発音篇</td><td>III</td><td>中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>発音篇</td><td>IV</td><td>音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>～第5回</td><td>本文篇</td><td>第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>～第7回</td><td>本文篇</td><td>第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>～第9回</td><td>本文篇</td><td>第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>～第11回</td><td>本文篇</td><td>第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>～第13回</td><td>本文篇</td><td>第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文</td></tr> <tr><td>第14回</td><td colspan="3">まとめと映画鑑賞</td></tr> <tr><td>第15回</td><td colspan="3">試験</td></tr> </table> <p>*状況に応じてスケジュールを変更することがあります。</p>			第1回	発音篇	I～II	中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng	第2回	発音篇	III	中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音	第3回	発音篇	IV	音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化	第4回	～第5回	本文篇	第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”	第6回	～第7回	本文篇	第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”	第8回	～第9回	本文篇	第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞	第10回	～第11回	本文篇	第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”	第12回	～第13回	本文篇	第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文	第14回	まとめと映画鑑賞			第15回	試験		
第1回	発音篇	I～II	中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng																																								
第2回	発音篇	III	中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音																																								
第3回	発音篇	IV	音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化																																								
第4回	～第5回	本文篇	第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”																																								
第6回	～第7回	本文篇	第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”																																								
第8回	～第9回	本文篇	第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞																																								
第10回	～第11回	本文篇	第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”																																								
第12回	～第13回	本文篇	第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文																																								
第14回	まとめと映画鑑賞																																										
第15回	試験																																										
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)																																										

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(H)	担当者	陳 躍																														
	[履修年次] 1, 2年 (注)	[学期] 前期	[授業形態] 演習方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級、漢語水平考試HSK基礎1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>我是上海人</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>我叫王平</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>这里是南京路</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>现在几点了?</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>今天是星期几?</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>你家有几口人?</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>没关系 (映画)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>香港的夏天热吗? (映画)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>四川菜很好吃</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>我经常散步</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>牌价是多少?</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>汉语难不难?</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>我没吃蒜</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>我想去超市</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>テスト</td></tr> </table>			第1回	我是上海人	第2回	我叫王平	第3回	这里是南京路	第4回	现在几点了?	第5回	今天是星期几?	第6回	你家有几口人?	第7回	没关系 (映画)	第8回	香港的夏天热吗? (映画)	第9回	四川菜很好吃	第10回	我经常散步	第11回	牌价是多少?	第12回	汉语难不难?	第13回	我没吃蒜	第14回	我想去超市	第15回	テスト
第1回	我是上海人																																
第2回	我叫王平																																
第3回	这里是南京路																																
第4回	现在几点了?																																
第5回	今天是星期几?																																
第6回	你家有几口人?																																
第7回	没关系 (映画)																																
第8回	香港的夏天热吗? (映画)																																
第9回	四川菜很好吃																																
第10回	我经常散步																																
第11回	牌价是多少?																																
第12回	汉语难不难?																																
第13回	我没吃蒜																																
第14回	我想去超市																																
第15回	テスト																																
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする																																

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (2) 【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回 前期試験の解説など 第2回 第6課 (1) 第3回 第6課 (2) 第4回 第7課 (1) 第5回 第7課 (2) 第6回 第8課 (1) 第7回 第8課 (2) 第8回 第9課 (1) 第9回 第9課 (2) 第10回 第10課 (1) 第11回 第10課 (2) 第12回 第11課 (1) 第13回 第11課 (2) 第14回 第12課 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験 (50%) , 授業への参加状況 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 英語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ(2) 【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】 中国語検定準4級程度(後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回 前期試験の解説など 第2回 第6課(1) 第3回 第6課(2) 第4回 第7課(1) 第5回 第7課(2) 第6回 第8課(1) 第7回 第8課(2) 第8回 第9課(1) 第9回 第9課(2) 第10回 第10課(1) 第11回 第10課(2) 第12回 第11課(1) 第13回 第11課(2) 第14回 第12課 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験(50%)、授業への参加状況(50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『縁日はとてもにぎやか』(スリム版)(郁文堂)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習と後期のウォーミングアップ 第2回～第3回 本文篇 第6課 正在开会呢……進行と完了 前置詞“给” 二重目的語をとる動詞 第4回～第5回 本文篇 第7課 桃太郎没坐过飞机……経験 比較 前置詞“在”“离”“从一到一” 第6回～第7回 本文篇 第8課 二胡拉得很不错……状態の持続 様態の描写(様態補語) 第8回 中国文化紹介DVD & 中国茶会 第9回～第10回 本文篇 第9課 他的病治好了……方向・結果の複合動詞 前置詞“把” 第11回～第12回 本文篇 第10課 快要过年了……“快要…了” “是…的” 第13回 中国映画鑑賞 第14回 まとめと後期の復習 第15回 試験 *状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 前期の中国語Ⅰに続く入門コース 【概要】 前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。 同時に道のたずね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。 【到達目標】 中国語検定準4級までを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「始めよう!中国語」 白水社 南雲智, 趙暉 著 (2) 授業で紹介する		
授業スケジュール	第1回 前置詞1 第2回 完了表現 第3回 動詞の重ね型 第4回 様態補語 第5回 連動文 第6回 経験を表す表現 第7回 前置詞2 第8回 1～7回までの復習 第9回 選択疑問文 第10回 動詞の進行を表す表現 第11回 状態の持続を表す表現 第12回 結果補語 第13回 方向補語 第14回 9～13回までの復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容、復習・課題の状況 50%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文Ⅱ 【概要】 1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい, それを使って作文をします。やや複雑な文にして, 基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず, 相手に気持ちを伝えることを大切にします。 作文のほか, 理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう, 中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき, 中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため, 中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級, 漢語水平考試 HSK 基礎1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教員研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 作文(1) 疑問詞(1) 第2回 作文(2) 疑問詞(2) 第3回 作文(3) “～の”(1) 第4回 作文(4) “～の”(2) 第5回 作文(5) 場所(1) 第6回 作文(6) 場所(2) 第7回 作文(7) 状態(1) 第8回 作文(8) 状態(2) 第9回 作文(9) 状況(1) 第10回 作文(10) 状況(2) 第11回 作文(11) 介詞(1) 第12回 作文(12) 介詞(2) 第13回 作文(13) 1年間の復習(1) 第14回 作文(14) 1年間の復習(2) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『緑日はとてもにぎやか』(スリム版) (郁文堂)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習と後期のウォーミングアップ 第2回～第3回 本文篇 第6課 正在开会呢………進行と完了 前置詞“给” 二重目的語をとる動詞 第4回～第5回 本文篇 第7課 桃太郎没坐过飞机………経験 比較 前置詞“在”“离”“从一到一” 第6回～第7回 本文篇 第8課 二胡拉得很不错………状態の持続 様態の描写 (様態補語) 第8回 中国文化紹介DVD & 中国茶会 第9回～第10回 本文篇 第9課 他的病治好了………方向・結果の複合動詞 前置詞“把” 第11回～第12回 本文篇 第10課 快要过年了………“快要…了” “是…的” 第13回 中国映画鑑賞 第14回 まとめと後期の復習 第15回 試験 *状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1, 2年 (注) [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楽しい中国語会話 【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第8回 我不会打日文 (映画) 第9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 テスト		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文+長文読解 【概要】 作文と長文読解を組み合わせて、中国語の応用力を高めます。 作文、長文読解のほか、理解度を確認するため筆記の小テストを数回実施します。 中国を知ろう、中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき、中国語がはじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため、中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定 4 級レベル、漢語水平考試 HSK 基礎 2 級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策 4 級』アルク		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 復習 (1) 第 3回 復習 (2) 第 4回 復習 (3) 第 5回 長文読解 (1) 第 6回 長文読解 (2) 第 7回 作文 (1) 動作の方向 第 8回 作文 (2) 強制と恩恵 第 9回 長文読解 (3) 第 10回 長文読解 (4) 第 11回 作文 (3) 介詞いろいろ 第 12回 作文 (4) やり方 第 13回 長文読解 (5) 第 14回 長文読解 (6) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%、定期試験 50%		

(注) 生活科学科を除く

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論	担当者	瀬戸口 照夫
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会において、健康問題が取り上げられているが、その原因を追求する。そして、人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。そして、人間と身体活動の関係をスポーツ人類学的に理解することを旨とする。</p> <p>【概要】健康を維持する為にはいかなる方策があるかを講じ、運動不足が生活習慣病の原因の一つであることを講じる。また、スポーツがその原初形態において人類にとって必要不可欠なものであったことを講じる。</p> <p>【到達目標】健康な生活を維持する為の方策を理解すること。また、人類的にスポーツの原初形態が何であったかを理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 健康とは何か 健康概念の変遷 第2回 健康問題と現代社会 第3回 運動と心の健康 第4回 スポーツの起源と伝播 第5回 スポーツと身体の文化 第6回 スポーツと神話・儀礼・宗教 第7回 スポーツと文化化・教育 第8回 まとめとテスト		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + レポート (20%)		

(注) 食物栄養専攻を除く。7.5回。

授業科目	生涯スポーツ実習 I (A, B)	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスを取りあげ、ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。このような学習課程の中で体力の必要性、仲間との上手な協力関係を学び、実生活でも応用できるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方、ルールを覚える。ラケットスポーツを通じた、健康・体力づくり、仲間づくりの方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料は郵付する。		
授業スケジュール	第1回：グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。 第2回～4回：ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとストローク（フォアとバック）。 第5回～7回：ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとボレー（フォアとバック）。 第8回～11回：ネットを挟んでのボール出しとストローク・ボレー（距離や強弱、正確性のコントロール技術）。 ※この段階からミニコートでの試合を経験する。 第12回：サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で、正確に打つこと、サーブを正確にリターンすることなどを学ぶ 第13回～14回：正式のコートの広さで、ルールに基づいてダブルスのゲームに挑戦する。審判が出来るようになる。 第15回：授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度 (60～80%) , 出席状況や授業への取り組み状況 (20～40%)		

(注) 文学科

授業科目	生涯スポーツ実習 I (C, D, E, F)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって、将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。</p> <p>【概要】 実技では、今まで実習したことのない種目を選定し、特に、ゴルフと硬式テニスを課す。</p> <p>【到達目標】 ゴルフの打法とアプローチの練習ができること。、硬式テニスでは、サーブが確率的に高く入るゲームが出来るようになることが最終目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 2 種目のビデオ, 指導教本や技術書の抜粋プリントと各種目のルール集		
授業スケジュール	第1回：ゴルフの概要 ・ゴルフの歴史やゲームの方法, 各クラブの機能の説明, 練習上の注意事項 第2回：ショートアイアの打法の解説と実践 ・9, 7 番アイアの打法とグリップの習得 第3回：ミドルアイアの打法の解説 ・前回のショートアイアの復習と5 番アイアの打法の解説と実践 第4回：フェアウェイクラブの打法 ・スプーンとクリークの打法の解説と実践 第5回：ドライバーの打法 ・今までのクラブの打法とドライバーの打法の違いの概説と実践 第6回：アプローチの実践 ・ショートアイアによる実践 第7回：アプローチのゲーム ・打数によるゲーム 第8回：テニスの概要 ・テニスの歴史とゲームに必要な打法の解説 第9回：フォアハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをフォアサイドで打ち返す練習 第10回：バックハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをバックサイドで打ち返す練習 第11回：サーブの練習 ・フォアハンド, バックハンドストロークの練習とアンダーサーブの練習 第12回：ダブルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第13回：シングルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第14回：ダブルスゲーム ・ 第15回：まとめと技術評価		
成績評価の方法	技術評価 (60%) + 練習ノート (40%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 生活科学科, 商経学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (A, B, C, D)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代		
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得を目標とする。</p> <p>【概要】卓球、バレーボール、バドミントン等の種目から一種目を選択し実習する</p> <p>【到達目標】卓球：カットサーブから始まるゲームができること、バドミントン：ショート、ロングサーブを使い分けてゲームができること バレーボール：誰もがアタックを打ち、チームフォーメーションが理解できること</p>				
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 各種目のビデオ (2)				
授業スケジュール	回数 /教材	卓球	バドミントン	バレーボール	
	1	オリエンテーション・準備、後片づけの確認(安全な使用)	・グループ分け(リーダ決定、グループノート活用について)	・試しのゲーム	・次週の計画を立てる
	2	卓球に技術について(様々な打法の理解と上回転の練習)	バドミントンの技術について(様々な打法の理解とハイクリアーの練習)	バレーボールの技術について(Aアタックから:アタックのイメージの転換)	
	3	様々な打法の練習(1) 上回転と下回転の理解と練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(1)(ハイクリアー・スマッシュ・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(1) トスの高さジャンプのタイミングを意識化→2:2→3:3	
	4	様々な打法の練習(2) (1)の練習に加えてスマッシュ練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(2)(ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(2)(トスの場所の変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)	
	5	様々な打法の練習(3) (2)の練習に加えてサーブの練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習-3(ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・ドライブ・ヘアピン・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(3)(トスの場所、高さの変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)・投げられサーブ、キャッチングレシーブ	
	6	様々な打法の練習(4) (3)の練習に加えてカットサーブのリターン練習・ゲーム	シングルゲームの解説とゲーム(リーグ戦)→ゲーム結果をもとにチーム分け	アタックの習熟とブロックの解説と練習(3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	7	シングルスゲームの解説とゲーム(1)	ダブルスゲーム解説とゲーム(二人のコンビネーションについての課題の発見)(1)	アタックレシーブの場所、アンダーパスの方法の解説(3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	8	シングルスゲーム(2)	ダブルスゲーム(2)	ゲーム(ポジション決定)	
	9	ダブルスゲームの解説とゲーム(1)	コンビネーションの解説と練習→ダブルスゲーム(チーム内リーグ戦)	セッターの決定とアタックとサーブのレシーブの違いの解説と練習・サーブ練習	
	10	ダブルスゲーム(2)	チーム対抗ゲーム(1)(シングルス、ダブルス混合)	ゲーム ポジションの確認と作戦	
	11	チーム対抗ゲームの解説とゲーム(1)	チーム対抗ゲーム(2) データを元に作戦を立てる	フォーメーションの解説とチーム作戦を立てゲームをする	
	12	チーム対抗ゲーム(2)	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(1)	
	13	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(2)	
	14	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(5)	チーム対抗ゲーム(3)	
	15	まとめと技術評価	まとめと技術評価	まとめと技術評価	
成績評価の方法	技術評価(60%) + 練習ノート(40%)を基準に、総合的に評価する。				

(注) 文学科, 生活科学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ(E, F)	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】スポーツと体力・運動能力づくり/健康づくり</p> <p>【概要】前期の実習Ⅰを踏まえ、後期には前半7回と後半7回(まとめ:1回)の中で2種類の異なるスポーツを選択し、グループ学習を通して技術やゲームの進め方を学習する。卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなどの中から2種目選択し、ゲーム中心に進めていく。</p> <p>【到達目標】選択したスポーツの基礎的な技術の習得と試合の進め方、戦術、作戦の立て方、パートナーやチームの協力のあり方などを学習し、楽しくより高度にゲームを進められるようになることを目指す。勝敗よりも楽しさや協力の大切さに主眼を置き、練習の過程とグループ(ペア)の協力の重要性を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料は添付する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回: 1回目グループ編成。実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。</p> <p>第2回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第3回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第4回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム。</p> <p>第5回: 準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム。</p> <p>第6回: 準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第7回: 準備運動、ダブルスゲームによる総当たりのゲーム。</p> <p>第8回: 2回目のグループ編成(前半と異なる種目を選択すること)、実習ノートと担当者の決定、セッティング。</p> <p>第9回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第10回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第11回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム。</p> <p>第12回: 準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム。</p> <p>第13回: 準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第14回: 準備運動、ダブルスによる総当たりのゲーム。</p> <p>第15回: 授業のまとめと評価</p>		
成績評価の方法	技術の上達度・試合の進め方(60~80%)、出席状況や授業への取り組み状況(20~40%)		

(注) 商経学科

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシー I (A)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第10回 画像を利用した文書作り (1) 第11回 画像を利用した文書作り (2) 第12回 表計算ソフト Excel 第13回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験 (1 : 1) の結果を合せて評価		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (B)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第10回 画像を利用した文書作り (1) 第11回 画像を利用した文書作り (2) 第12回 表計算ソフト Excel 第13回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験 (1 : 1) の結果を合せて評価		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)	担当者	青山 究
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】Word, Excel が使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Word を、実習を通して使えるようにする。</p> <p>【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない、日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できるようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部著「30時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 タッチタイピング；</p> <p>第 2回 Windows 7 入門：画面構成、アプリケーションソフトの起動と終了、タスクバー、エクスプローラ</p> <p>第 3回 日本語入力 1：日本語入力設定、文字の入力、漢字変換</p> <p>第 4回 Word 入門：起動と終了、画面構成</p> <p>第 5回 日本語入力 2：文章入力、入力の訂正</p> <p>第 6回 日本語入力 3：特殊な入力方法、各種辞書</p> <p>第 7回 文書の作成 1：ページ設定、ファイルの保存・読み込み、印刷のページ設定</p> <p>第 8回 文書の作成 2：複写、削除、移動</p> <p>第 9回 文書編集：左右揃え、中央揃え、箇条書き</p> <p>第 10回 文書編集：フォント・フォントサイズの変更、下線</p> <p>第 11回 文書編集：表の作成、均等割付、文字の網掛け</p> <p>第 12回 表の編集：行・列の挿入削除、セル結合</p> <p>第 13回 ビジュアル：ワードアート、クリップアート、ページ罫線</p> <p>第 14回 アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用、Web データ活用、新機能など</p> <p>第 15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題 (50%) + 実技試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)	担当者	遠矢 守
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】</p> <p>現代人にとってコンピュータとインターネットなどは、情報の収集、分析 (解決)、情報の発信のための重要な道具となっている。本授業では、これらを利用した「情報活用技術」の基礎について実際にコンピュータを操作しながら学ぶことにする。</p> <p>コンピュータの仕組みや Windows の基本的事項の学習から始め、インターネット (メール、情報検索) や応用ソフト (ワープロ、表計算ソフト) に関して、これからの社会で生き抜く上で修得しておくべき事項について学習し体得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション (授業の方針・目標、受講上の注意)、コンピュータの仕組みと簡単な操作</p> <p>第 2回 タッチタイピング、Windows の基本的操作、保存メディア、ショートカットキー</p> <p>第 3回 日本語入力 (部分確定・文節の切り替え、文字列の編集加工、単語登録、再変換など)、簡単なファイル処理</p> <p>第 4回 Word による文書作成 1 (Word の基礎)</p> <p>第 5回 電子メールの仕組み、ファイル添付、メールに関する情報モラル</p> <p>第 6回 Web を利用した情報検索の方法 1、ブラウザの効果的操作方法</p> <p>第 7回 Web を利用した情報検索の方法 2、調査事項の文書化</p> <p>第 8回 ネット犯罪とセキュリティ</p> <p>第 9回 ペイント系ソフトの技法、絵入り文書の作成など</p> <p>第 10回 Word による文書作成 2 (図形描画ツールに関する技法)</p> <p>第 11回 Word による文書作成 3 (表、インデント、段組み、Word のショートカットキー)</p> <p>第 12回 Excel の基礎 1 (簡単な縦横計算)</p> <p>第 13回 Excel の基礎 2 (簡単なグラフ作成、Word 文書への表やグラフの貼り付け)</p> <p>第 14回 簡単なファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念)</p> <p>第 15回 期末試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のためのWord 2007』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のためのWord 2007』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的にこなすための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>IIでは、Iで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第1回 電子メールとネットワークセキュリティ、漢字コード 第2回 ネットの仕組みと情報検索、文字エンコード 第3回 マナーとコンプライアンス 第4回 表計算ソフト 関数の利用 第5回 表計算ソフト グラフの作成 第6回 表計算ソフトとワープロ文書の連携 第7回 表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第8回 Webによる情報発信 ページの作成 第9回 Webによる情報発信 javascript とWeb2.0 第10回 Webによる情報発信 CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 アクセシビリティ 第12回 中学校における情報教育について 第13回 オープンソースとは 第14回 オープンソースの教育利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験(パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的にこなすための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>IIでは、Iで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第1回 電子メールとネットワークセキュリティ、漢字コード 第2回 ネットの仕組みと情報検索、文字エンコード 第3回 マナーとコンプライアンス 第4回 表計算ソフト 関数の利用 第5回 表計算ソフト グラフの作成 第6回 表計算ソフトとワープロ文書の連携 第7回 表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第8回 Webによる情報発信 ページの作成 第9回 Webによる情報発信 javascript とWeb2.0 第10回 Webによる情報発信 CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 アクセシビリティ 第12回 中学校における情報教育について 第13回 オープンソースとは 第14回 オープンソースの教育利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験(パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)	担当者	青山 究
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】Word, Excel が使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Excel を、実習を通して使えるようにする。</p> <p>【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない、日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部著「30時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 タッチタイピング： 第 2 回 Windows 7 入門：コントロールパネル、フォルダ、右クリック、ガジェット、ファイル検索、Internet Explorer 第 3 回 日本語入力：日本語入力設定、文字の入力、漢字変換 第 4 回 Excel 入門：起動と終了、画面構成 第 5 回 データ入力：数値データの入力、文字列データの入力、ファイルの保存と読み込み 第 6 回 ワークシートの編集：セルの挿入・削除、移動、コピー、データ修正、連番データの入力、数式入力 第 7 回 ワークシートの書式設定：列幅・行高の変更、表示形式、文字の配置とフォント、罫線、塗りつぶし 第 8 回 グラフ：グラフの作成、棒グラフ、円グラフ 第 9 回 グラフ：系列の変更、数値軸目盛の変更、グラフ種類の変更、データ系列、軸ラベル、凡例、フォント、データラベル 第 10 回 関数の活用 1：最大値(MAX)、最小値(MIN)、個数(COUNT)、順位付け(RANK)、四捨五入(ROUND) 第 11 回 関数の活用 2：判定(IF)、条件集計(COUNTIF、SUMIF)、表の検索(VLOOKUP) 第 12 回 データベース機能 1：ソート、フィルタ、条件付き書式、テーブル 第 13 回 データベース機能 2：ピボットテーブル、クロス集計、レポートフィルタ 第 14 回 アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用、Web データ活用、新機能など 第 15 回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題 (50%) + 実技試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)	担当者	遠矢 守
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】 本科目は、情報リテラシーⅠから続くものでⅠと同じ授業方針で進める。 本科目Ⅱでは、Ⅰで学んだことをもとに、Ⅰより高度な Word や Excel のスキルの修得を目指す。さらに、デジタルプレゼンテーションやホームページ作成など情報発信に関するスキル修得を目指す。加えて、Word や Excel などオフィスソフトの機能を自分なりに拡張できるマクロプログラミング技法の基礎について紹介する。</p> <p>【到達目標】 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 第 2 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 1 (文字だけのプレゼンテーション、テキストアニメーション) 第 3 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 2 (図・表・動画の活用、図やグラフのアニメーション) 第 4 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 3 (効果的プレゼンテーションとは) 第 5 回 Excel による縦横計算 1 (関数の利用 1) 第 6 回 Excel による縦横計算 2 (関数の利用 2, Excel のショートカットキー) 第 7 回 Excel による縦横計算 3 (演習) 第 8 回 Excel によるグラフ作成、グラフ入り文書の作成 1 第 9 回 Excel によるグラフ作成、グラフ入り文書の作成 2 第 10 回 Excel によるデータベース処理 1 第 11 回 Excel によるデータベース処理 2 第 12 回 エディタによるホームページの作成 第 13 回 ファイルの整理 (ファイルの圧縮解凍)、OS の概念 第 14 回 マクロプログラミング入門 第 15 回 期末試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(E)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 インターネットの活用 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(F)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 インターネットの活用 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 経営情報専攻

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目
(専門基礎科目)

授業科目	現代社会論	担当者	斉藤 悦則
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会の諸問題にアプローチする。</p> <p>【概要】 社会学・経済学・思想・哲学から、さまざまな分析装置（道具）を借りて、今という時代を「非常識的に」解釈する。世間で流布している通説、マスコミが私たちに信じさせようとしていることは、じつは「ウソ」かもしれないのである。非常識になれば、そうした情報の虚妄から免れることができる（かもしれない）。</p> <p>【到達目標】 頭をさらに柔らかくして、新しいアイデアを生み出す底力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 良いは悪い……合成の誤謬 第2回 社会の不幸度……アノミー 第3回 隣と差をつけたい……記号的消費 第4回 フェティシズム……手段の自己目的化 第5回 禁欲が資本主義を生んだ……プロテスタンティズム 第6回 浪費の制度化……資本主義の文化的矛盾 第7回 強者と弱者……ルサンチマン 第8回 正常と異常……パノプチコン 第9回 社会的ジレンマ……共有地の悲劇 第10回 恋愛の形……ロマンチック・ラブ・イデオロギー 第11回 他者との距離……ヤマアラシのジレンマ 第12回 個性の時代って本当？……大衆社会 第13回 貧乏人には救いが……文化資本 第14回 努力すればいいってもんじゃない……80・20の法則（パレートの法則） 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文（100%）		

授業科目	社会哲学	担当者	種村 完司
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会哲学において最も重要な課題である、現代の価値観や倫理の諸問題を取り上げる。</p> <p>【概要】1) 人生や社会の価値を問う倫理学は、どんな機能をもっており、他の学問とどのように関係しているか。2) 科学技術は、現代人の生活にどんな影響を及ぼしているか、また、科学技術を支える価値観に問題はないか。3) 地球規模で発生している自然環境・生態系破壊の中で、今どんな新しい倫理が求められているか。4) 急速に発達している先端医療や生命科学において、どんな哲学的倫理的な問題が発生しており、それらをどう解決したらよいか。――などを中心的なテーマとして、わかりやすく講義する。</p> <p>【到達目標】1) 倫理学の性格や役割についての基礎知識 2) 現代の科学技術や医療、自然環境・生態系問題に対する的確な理解 3) 自分の生活や価値観への問い直し、倫理的思考力の育成 ―等々を目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	毎回、必要な資料やプリントを配布する。		
授業スケジュール	第1回 社会の哲学および倫理学の現代的機能 第2回 倫理学の基本的性格と学問上の位置 ―「倫理」とは何か、「道徳」とは何か 第3回 今日の科学技術が及ぼしている社会面・生活面への影響と問題点（その1） 第4回 今日の科学技術が及ぼしている社会面・生活面への影響と問題点（その2） 第5回 科学技術を支えている価値観についての反省 第6回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（1）―「脳死」と死の判定 第7回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（2）―「臓器移植」 第8回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（3）―「安楽死」 第9回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（4）―「尊厳死」とターミナル・ケア 第10回 地球環境・生態系問題の現実と哲学的課題 第11回 環境倫理学における諸問題（1）―今日の主要な論争点 第12回 環境倫理学における諸問題（2）―「自然の権利」をめぐる 第13回 環境倫理学における諸問題（3）―生命中心主義と人間中心主義 第14回 「持続可能な社会」にむけて必要な価値観と諸方策 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋毎回の授業での感想・意見（30%）		

授業科目	経済学	担当者	内田 昌廣
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複雑化した現代社会に生きる私たちにとって、様々な経済事象を理解できる力 = 「経済知力」の重要性はますます高まっている。本講義では、経済学の入門講座として、経済学的な見方・考える力を身につけるための基礎力を養う。</p> <p>【概要】 経済を構成する消費者、企業、政府の行動理論を学び、これらの経済主体を結び付けているさまざまな市場や国民経済全体の成り立ち・仕組みについての理解を深める。本講義で修得する知識をベースとして、経済関連の他科目でのより深い理解に繋げる。</p> <p>【到達目標】 経済学の基本的な考え方を理解し、経済の仕組みや動きについての全般的な基礎知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 野口旭『ゼロからわかる経済の基本』講談社現代新書、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步』晃洋書房、吉本佳生・NHK『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会(NHK出版)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：経済って何だろう（欲求と経済、経済の主役、限りある資源、トレードオフ） 第2回 市場経済の仕組み (1)：資本主義・市場経済とは？、消費者や企業はどのように買う量や売る量を決めるのか？ 第3回 市場経済の仕組み (2)：買う量や売る量を変化させるものは？、需要と供給はどのようにして一致するのか？ 第4回 市場経済の仕組み (3)：市場で交換を行うことのメリットは？— 当事者の満足度、資源の効率的な配分 第5回 市場経済の仕組み (4)：価格は誰が決める？、不完全な市場とは 第6回 企業の様々な価格戦略：価格差別、二部料金制、ディスカウントストア、歩合制家賃 第7回 国全体の経済の仕組み (1)：国内総生産（GDP）って何だろう、GDPの3つの側面とは、GDPの大きさを決めるものは？ 第8回 国全体の経済の仕組み (2)：好景気と不景気のサイクル（景気循環）が起こる理由、インフレ・デフレとは 第9回 国全体の経済の仕組み (3)：お金の経済学 — 金融の仕組み、金利の決め方 第10回 国全体の経済の仕組み (4)：海外との取引 — 自由貿易の理論、国際収支の仕組み、為替レート（円高・円安）とは 第11回 国全体の経済の仕組み (5)：政府の役割 ① — 貯蓄のパラドックス、公共投資や減税の効果、財政政策の「落とし穴」 第12回 国全体の経済の仕組み (6)：政府の役割 ② — 市場の失敗、所得再分配 第13回 国全体の経済の仕組み (7)：日本銀行の役割 — 金融緩和と金融引き締め 第14回 マルクス経済学概論：マルクスが分析した資本主義経済、剰余価値説、資本主義についての歴史観 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約、行政上の義務履行確保制度、行政手続等をわかりやすく解説し、行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原理、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 法律による行政の原理 第2回 行政立法 第3回 行政行為(1) 第4回 行政行為(2) 第5回 行政指導 第6回 行政上の義務履行確保制度 第7回 行政手続法 第8回 行政不服申立て 第9回 行政事件訴訟法(1) 第10回 行政事件訴訟法(2) 第11回 行政事件訴訟法(3) 第12回 国家賠償法(1) 第13回 国家賠償法(2) 第14回 損失補償 第15回 まとめと試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について、 ・法規命令（委任命令、執行命令）、行政規則について ・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について ・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、瑕疵の治癒と転換について ・規制行政指導、助成行政指導、調整的行政指導、要綱行政について ・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政罰について ・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為について ・審査請求、異議申立て、再審査請求、教示について ・抗告訴訟、取消訴訟、事情判決、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議について ・処分性、原告適格、法律の保護する利益説、保護に値する利益説について ・狭義の訴えの利益、無効等確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟について ・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について ・公の营造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について ・正当な補償、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間、予防接種事故について 		
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言の記録 (10%) を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	経済政策	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国民の社会生活の向上を目的として行われる経済政策について、その考え方・政策手段・課題に関する基礎を学習する。</p> <p>【概要】経済政策が必要とされる背景、経済政策に関する思想、伝統的な経済政策の概要から、現代社会における新しい政策課題まで幅広く取り上げて解説し、自分なりに経済政策を評価できる基礎力を養う。</p> <p>【到達目標】主要な経済政策の意義や政策手段の概要について理解し、その限界や課題について関心や自分の意見を持てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 山口三十四・足立正樹・丸谷治史・三谷直紀『経済政策基礎論』有斐閣ブックス 大竹文雄『経済学的思考のセンスーお金がない人を助けるには』中公新書		
授業スケジュール	第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：なぜ人々の自由な経済活動に、政府が介入する必要があるのだろうか？ 第2回 経済政策の思想：政府は何どこまで介入（関与）すべき？— 新自由主義と新社会主義、大きな政府と小さな政府 第3回 成長と安定の経済政策（1）：成長のための経済政策 — 成長政策の手段、発展途上国と経済成長 第4回 成長と安定の経済政策（2）：安定のための経済政策 — 雇用の改善と物価安定、安定化政策の手段、安定化政策の課題 第5回 所得と資産の分配政策（1）：所得分配の格差を測る方法、望ましい分配の基準とは 第6回 所得と資産の分配政策（2）：分配政策の手段（課税制度、社会保障制度）、分配政策の効果と課題 第7回 産業政策（1）：産業政策の必要性、外部性と産業政策（産業育成政策、知的財産権の保護政策）、公共財の供給 第8回 産業政策（2）：自然独占と規制政策、公益企業の規制緩和と民営化 第9回 産業政策（3）：情報の非対称性と経済政策、市場支配力と独占禁止政策 第10回 労働政策（1）：労働政策の必要性、労働政策の歴史、失業に対する政策 第11回 労働政策（2）：女性雇用・高齢者雇用・若年雇用に対する政策 第12回 農業と人口問題：グローバル化と農業問題、少子高齢化と年金問題 第13回 環境政策：環境税、温暖化ガスの排出権取引、太陽光発電の推進 第14回 グローバル経済と経済政策：自国利益と国際協調、地域経済統合と経済政策、政策協調による新たな国際ルール作り 第15回 まとめと試験 （※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります）		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】格差や貧困はなぜ生まれるか、どうなくすか考える。</p> <p>【概要】資本主義社会において、賃金や雇用条件の改善、社会保障の充実が、なぜ求められ、どのように発展してきたのか、そして、今日なぜ格差拡大と社会保障削減が進むのかを分析し、その理由と問題性、解決課題をさぐります。</p> <p>【到達目標】資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因から法則的にとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという視点を獲得すること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に定めない (2) 後藤道夫・木下武男「なぜ富と貧困はひろがるのか 格差社会を変えるチカラをつけよう」旬報社		
授業スケジュール	第1回 講義の目的と進め方について： 第2回 資本と賃労働 : 資本賃労働関係の理論的把握 第3回 賃金（1）賃金形態 : 賃金についての俗説を批判する。 第4回 賃金（2）時間賃金・出来高賃金 : 賃金形態の発展とその影響をとらえる。 第5回 資本主義的生産と労働時間の延長 : 資本が労働日を延長する基本法則を理解する 第6回 標準労働日を巡る闘争と工場法体系 : 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する 第7回 社会政策本質論争の特徴と限界 : 社会政策本質論争の理論的問題点を検討する 第8回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性 : 貧困化論の問題点を検討する。 第9回 社会政策と国家 : 国家の一政策としての社会政策を理解するために国家論を検討する 第10回 帝国主義と協同的労使関係 : 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する 第11回 福祉国家 : 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる 第12回 ケインズ革命の終焉 社会政策から総合社会政策へ : ケインズ政策の限界と社会政策の経済政策化をとらえる 第13回 新自由主義と福祉国家のゆらぎ : 今日のグローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる 第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性 : 労働者の処遇抑制、福祉抑制の中で何が生じているかを理解する 第15回 まとめ		
成績評価の方法	論述試験（100%）		

授業科目	社会思想	担当者	斉藤 悦則
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ばらばらの個人の集まりが、社会として「まとまっている」、その根拠について考える。</p> <p>【概要】 社会はどうしてまとまっているか、それについて、さまざまな考え方（思想）を紹介する。それらの思想は、それぞれ「もってもらしさ」を備えている。しかも、相互に対立し合う。このことを通じて、世の中に「大正解」はない、ということ学ぶ。</p> <p>【到達目標】 もってもらしい学説（お説教）に、容易に丸め込まれない思考力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 社会のまとまり……ホッブス 第2回 自分が人生の主人公……ロック 第3回 文明の進歩＝徳性の下落……ルソー 第4回 生産力主義……サン・シモン 第5回 労働を遊びに変える……フーリエ 第6回 労働をとおして成長する……ブルードン 第7回 近代人の疎外……フォイエールバッハ 第8回 群衆への埋没をまぬがれる……キルケゴール 第9回 自立しつつ連帯する……マルクス 第10回 異見の有用性……J・S・ミル 第11回 絶対自由主義……バクーニン 第12回 国家という暴力装置……レーニン 第13回 敵の敵は味方……カール・シュミット 第14回 多様性が豊かさの源……レヴィ・ストロース 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文（100%）		

授業科目	民法	担当者	疋田 京子
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「外国人」という存在を鏡として「民法」を学ぶ</p> <p>【概要】民法は、契約や損害賠償請求、婚姻、親子、相続など私たちが「他者」と共に生活する日常生活に深く関わっている。国籍に基づくナショナルや民族に基づくエスニックを異にする外国人を、共に生活する他者として位置づけ、民法における「人」の処遇のあり方、「人」の生活を支える法規範や制度のあり方、生成の様子を検討し、「民法」とは何かの全体像をつかむ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大村敦『他者とともに生きる 民法から見た外国人法』（東京大学出版会）		
授業スケジュール	第1回 外国人と民法～導入；二つの訴訟（東京都昇進訴訟、小樽温泉訴訟） 第2回 現代日本の外国人：外国人が直面している法律問題 第3回 民法典における外国人に関する規定：内外人平等の原則をめぐる論争 第4回 民法学と外国人：外国人の識別と同定 第5回 外国人の基本的処遇：出入国管理、在留資格、法的人格、参政権 第6回 外国人の家族生活（1）家族関係と準拠法、婚姻関係における外国人の固有の問題 第7回 外国人の家族生活（2）「外国人法」における「親子」 第8回 外国人の家族生活（3）その他の家族関係、「家族」の処遇と「家族」の意義 第9回 外国人の労働：制度と実情、法的対応 第10回 外国人就学生をめぐる問題 第11回 外国人の日常生活：住まい・買い物、問題の所在と基本的な考え方 第12回 外国人の事故をめぐる問題：民事責任と保険、損害額の算定、外国人不法就労者の場合 第13回 外国人の多様性・日本人の多様性：戦後日本の「外国人」、明治二本の「日本人」 第14回 外国人と市民＝社会と法の将来 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	講義ごとに提出してもらおう小レポート（30点）＋試験（70点）		

授業科目	商法	担当者	田平 紀男
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法入門</p> <p>【概要】 商法の解説を行う。「商法総則」, 「会社法」を中心として扱う。商法は、民法の財産法部分(「総則」, 「物件」及び「債権」と関係しているので、受講者は、あわせて、この民法の知識を修得することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 (1) 商法の基礎を理解する。 (2) 法的思考方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 近藤光男編 『現代商法入門』 有斐閣 (2) 『ポケット六法』 有斐閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 商法とは何か 第3回 商法総則(1) 第4回 商法総則(2) 第5回 商法総則(3) 第6回 商法総則(4) 第7回 会社(1) 第8回 会社(2) 第9回 会社(3) 第10回 会社(4) 第11回 会社(5) 第12回 会社(6) 第13回 商行為(1) 第14回 商行為(2) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】 産業におけるヒューマンファクター(人的要因)を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。 簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】 商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開 (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明 第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係 第9回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印象管理 第13回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第14回 予備 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート(通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%)		

授業科目	簿記論 I (経済専攻)	担当者	白谷 健一
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 複式簿記の仕組みについて学習する。 【概要】 まず、企業会計で用いられる複式簿記の一巡の手続きを単純な取引例を通じて学習し、さらに企業活動の根幹である商品売上の処理について学習する。 なお、簿記の知識は理論の勉強とともに、多くの問題にあたることによって定着するため、毎回の講義で問題演習を課す。 【到達目標】 簿記に関する基礎的な知識と三分法による商品売上の記帳方法を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 加古直士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記 3級商業簿記』税務経理協会 (1) 加古直士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会		
授業スケジュール	第 1 回 講義ガイダンス、簿記の要素 (資産、負債、純資産、収益、費用) 第 2 回 簿記の基本概念 (借方・貸方、貸借対照表・損益計算書) 第 3 回 取引と勘定記入 (簿記上の取引、勘定) 第 4 回 仕訳と転記① (仕訳) 第 5 回 仕訳と転記② (転記) 第 6 回 仕訳帳と総勘定元帳 (仕訳帳、総勘定元帳、標準式、残高式) 第 7 回 試算表① (単純な試算表の作成) 第 8 回 6桁精算表 (単純な精算表の作成) 第 9 回 決算と財務諸表の作成① (決算仕訳) 第 10 回 決算と財務諸表の作成② (勘定の締め切り、試算表・財務諸表の作成) 第 11 回 現金・預金① (現金、当座預金) 第 12 回 現金・預金② (現金過不足、小口現金) 第 13 回 商品売買① (三分法、仕入帳、売上帳) 第 14 回 商品売買② (商品有高帳) 第 15 回 まとめと試験 (※ 講義の進捗によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	簿記論 I (経営情報専攻)	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)		
テーマ及び概要	【テーマ】 複式簿記の仕組みの理解 【概要】 みなさんは、これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか (現金収支とその明細) くらいしか記入しなかったと思います。しかし、利益の獲得を目的としている企業がつけている帳簿では、現金収支に限らずさまざまな取引を記帳しています。会社はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み (原理) を理解することがこのコース (科目) の目的です。 【到達目標】 複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版、2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版、2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、簿記とは、簿記の用語 第 2 回 基礎1：資産・負債・資本と貸借対照表 第 3 回 基礎2：収益・費用と損益計算書 第 4 回 基礎3：取引と勘定記入 第 5 回 基礎4：仕訳 第 6 回 基礎5：転記 第 7 回 復習、小テスト1 第 8 回 基礎6：試算表 第 9 回 基礎7：決算1 第 10 回 基礎8：決算2 第 11 回 基礎9：損益計算書、貸借対照表の作成 第 12 回 基礎10：精算表 第 13 回 復習、小テスト2 第 14 回 復習、小テスト3 (講義の進み具合で、調整等を行う場合があります) 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況 (20%)、および最終試験 (80%) で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 経営情報専攻 (宗田) と経済専攻 (白谷) とは、別クラスです。

(注2) 2011年度の経営情報専攻の簿記論 II は前期に開講されます。簿記論 I を履修する学生は、必ずセットで簿記論 II の履修登録を行ってください。

(注3) 2010年度以前に簿記論 II のみを履修済みの学生も2011年度に簿記論 I を履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

(注4) 後期に開講される、財務会計論、コンピュータ会計を履修する予定の学生は、必ず、簿記論 I, II を履修してください。

授業科目	経営学総論	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年 (注) 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営学の全体像を理解する。</p> <p>【概要】 この授業では、経営学に関する様々なテーマを体系的に講義する。経営学に初めて触れる人を対象に、分かりやすい説明から始めつつ、経営学の主要論点を解説していく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学の全体像を理解してもらう。 2. 各回のつながり (各分野のつながり) を意識してもらう。 3. 経営学に関する各専門の講義を受講するための基礎力をつける。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方を説明し、経営学とはどのようなものかについて解説する。</p> <p>第2回 経営学の誕生と経営管理論：テイラーの科学的管理法とその後の管理論の展開について講義する。</p> <p>第3回 経営戦略論 (1)：経営戦略の定義、3つのレベル、企業戦略のそれぞれについて説明する。</p> <p>第4回 経営戦略論 (2)：ポジショニング・アプローチと資源ベース・アプローチに区分し、競争戦略論を解説する。</p> <p>第5回 経営組織論 (1)：組織構造論に焦点を当て、代表的な組織構造を中心に講義する。</p> <p>第6回 経営組織論 (2)：組織行動論について、組織文化論などを中心に講義する。</p> <p>第7回 人的資源管理論：モチベーション理論およびリーダーシップ論について、代表的な学説を検討する。</p> <p>第8回 生産管理論：主にトヨタ生産システムを取り上げながら、生産のあり方について講義する。</p> <p>第9回 株式会社制度：主要な会社形態である株式会社制度について理解を深めてもらう。</p> <p>第10回 コーポレート・ガバナンス：企業は誰のためのものか、そして、どのように運営していくべきかについて講義する。</p> <p>第11回 日本の経営論：米国企業と対比させながら、日本企業の特徴とその変遷について説明する。</p> <p>第12回 国際経営論：国際経営の特徴、および国際経営を行う際に生じる問題を提示する。また、時事問題も取り上げる。</p> <p>第13回 企業の社会的責任論：様々な企業不祥事と企業の社会的責任について考えてもらいたい。</p> <p>第14回 環境経営論：近年とくに注目されてきている環境経営について講義する。</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

(注) 平成23年度は2年生も受講することができる。

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ (ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器) やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第6回 モニタ、光学ドライブ：モニタの種類と特性、光学ドライブの種類とメディア</p> <p>第7回 インターネットにまつわるあれこれ：インターネットに関する質問に対する回答</p> <p>第8回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第9回 インターフェイスと周辺機器：インターフェイスの種類と様々な周辺機器紹介</p> <p>第10回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第11回 コンピュータウイルス：コンピュータウイルスの仕組みと防御法</p> <p>第12回 セキュリティ対策：ネットワーク全般のセキュリティ対策</p> <p>第13回 これからのインターネット：インターネットの最新事例と今後の展開</p> <p>第14回 予備</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%)		

授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定(文書作成)対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得(日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社(著)『日商PC検定試験 文書作成 3級完全マスター』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習・・・・・・・・概要説明, 前期の復習(基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第2回 社外文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書の基礎知識, 社外文書の作成(案内状)</p> <p>第3回 社内文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書のライティング技術, 課題文書作成(表を利用した文書の作成)</p> <p>第4回 ネット社会の特徴・・・・・・・・ネットワーク社会の特徴について, 社内文書の作成(連絡文書)</p> <p>第5回 デジタル情報の整理法・・・・・・・・デジタル情報の整理法について, 計算式を含む文書の作成</p> <p>第6回 図解の利用・・・・・・・・ネットワーク関連の法律について, 課題文書作成(図解を利用した文書)</p> <p>第7回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習(知識科目, 実技科目)</p> <p>第8回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習(知識科目, 実技科目)</p> <p>第9回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習(知識科目, 実技科目)</p> <p>第10回 文書の編集・・・・・・・・いろいろな応用機能(段組み, タブ, ヘッダー・フッターなど), 課題文書作成</p> <p>第11回 議事録の作成・・・・・・・・議事録の作成(スタイルの設定, セクション区切りの挿入など)</p> <p>第12回 報告書の作成・・・・・・・・課題文書(報告書)の作成(テンプレートの利用, 段落罫線など)</p> <p>第13回 Excelデータの利用・・・・・・・・Excelデータ(表, グラフ)の文書への取り込み</p> <p>第14回 総合復習・・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経済専攻と経営情報専攻とは、別クラス

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介文書作成: ワードプロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2) 提案書作成: インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する 3) ホームページ作成: 自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布, Webでも公開</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 自己紹介文書作成1: ワードプロを使ったベース文書の作成</p> <p>第3回 自己紹介文書作成2: 表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第4回 自己紹介文書作成3: 写真, 図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第5回 自己紹介文書作成4: 仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第6回 提案書作成1: インターネットによる費用検索</p> <p>第7回 提案書作成2: 表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第8回 提案書作成3: プレゼン資料の作成</p> <p>第9回 提案書作成4: 仕上げ, データ送信のコツ</p> <p>第10回 ホームページ作成1: USBメモリへのソフトの導入。HTML概念の復習。</p> <p>第11回 ホームページ作成2: 課題設定とページ作成</p> <p>第12回 ホームページ作成3: 資料収集とページ作成</p> <p>第13回 ホームページ作成4: ページ公開</p> <p>第14回 予備</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート(3つの課題を総合的に評価: 100%)		

授業科目	PC データ活用	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト Microsoft Excel 基本操作の習得 【概要】 表計算ソフト Microsoft Excel を使用し、作表や表計算といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト Microsoft Excel の基本操作を確実に習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 Excel 基本操作確認 第2回～第3回 編集機能の活用、関数（合計・平均）の設定、書式設定などで見やすい表にする 第4回～第8回 計算式の設定の仕方・関数の設定（順位・条件など） 第9回～第11回 グラフ作成、編集 第12回～第13回 データベース機能 第14回 ピボットテーブル、ピボットグラフの作成 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業内での操作状況（70%）＋試験（30%）		

授業科目	PC データ活用実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 取得操作の実践活用 【概要】 前期習得した内容を活用出来るよう、さまざまな実践問題に取り組む。 【到達目標】 PC検定（データ活用）の3級・もしくは2級の取得		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版 (2) 資料プリント		
授業スケジュール	第1回 前期の復習 第2回～第4回 演習 第5回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業内での操作状況（40%）＋授業内小テスト（30%）＋試験（30%）		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなせるようになる。</p> <p>【概要】 本実習は前期の情報リテラシーII (E)・(F) の応用となるので、前期のクラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種ソフトウェア (プレゼンテーション, PDF ファイル作成, OCR, 動画編集, HP 作成等) の基本的使い方を学習する。</p> <p>【到達目標】 上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し, 自ら実践的に応用できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時, 資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第 1 回 授業前アンケート (使用ソフトウェアの希望など) 第 2 回 Windows パソコンの基本的な扱い方の復習 第 3 回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (1) 第 4 回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (2) 第 5 回 PDF ファイルの扱い方・OCR の利用 第 6 回 PDF ファイルの扱い方・文書ファイルの統合 第 7 回 動画ファイルの扱い方・ムービーメーカーの使い方 第 8 回 動画ファイルの扱い方・ムービーの撮影 第 9 回 動画ファイルの扱い方・ムービーの編集 第 10 回 インターネットの応用・地図サイトの活用 第 11 回 ホームページの作成 (1) 第 12 回 ホームページの作成 (2) 第 13 回 ホームページの作成 (3) 第 14 回 総復習 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験 (1:1) の結果を合せて評価		

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、日本経済の進むべき方向について、さまざまな議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様子を見せず、真っ向から対立する議論が一層激しく戦わされているといった状況です。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質とその問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6回 日本の産業と行政指導：勸告操短、企業の反発等 第 7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11回 現在の産業政策：産業活力再生特別措置法、現在の産業政策の特徴等 第 12回 グローバル化と構造改革：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向、構造改革の本質等 第 13回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政・財政学</p> <p>【概要】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記、授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】財政には、政府の活動が正直に反映され、その政府の活動は、社会のあり方や人々の生活、経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活、経済状況は、国民一人一人の財政に対する判断によって、大きく変わることになるでしょう。そこで、本講義では、受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え、判断できるようになることを目指し、財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の財政の制度、実態、抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等 第 3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等 第 4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等 第 5回 経費(1)：定義、経費を分析する意味、経費の分類等 第 6回 経費(2)：経費膨張の法則・転位効果、小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等 第 10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等 第 12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等 第 13回 財政改革の基本的な見方：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	農業経済論	担当者	田中 史朗
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 世界の中の日本農業—日本農業の針路—</p> <p>【概要】 世界および日本の農業動向と課題を分析・抽出し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、いかに日本農業の再建を図り、地域社会再生に繋げていったらよいかを、多角的に検証し解明していく。</p> <p>【到達目標】 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本農業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本農業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第2回 農産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農産物貿易の特徴とフードマイレージ 第3回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第4回 農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第5回 ヨーロッパ、新大陸、日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第6回 途上国における「緑の革命」の功罪と限界について：緑の革命とは 第7回 農業開発と環境問題：途上国の人口爆発と環境破壊 第8回 食の安全と農業：遺伝子組み換え作物とBSE 第9回 農業組織論：農業経営組織の種類と特徴 第10回 日本農業の現状と課題（1）：国民経済に占める農業の地位と自給率 第11回 日本農業の現状と課題（2）：農業の近代化と担い手 第12回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第13回 農業の再生への道標（1）：六次産業化と都市との交流 第14回 農業の再生への道標（2）：食育、スローフード運動と所得補償方式 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)+期末試験(60%)		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「経済の血液」である金融は、個人の生活や企業活動を支えるとともに、その動向は仕事・生活にも大きな影響を与える。本講義では、金融論の入門講座として金融に関する基礎知識を学習するとともに、金融が経済に及ぼす影響など広い視野を養う。</p> <p>【概要】 金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や最近の世界金融危機の原因まで、幅広いテーマを取り上げて金融というものの全体像を掴み、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を養う。</p> <p>【到達目標】 金融機関の役割や金融市場など金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 日本経済新聞社編『ベーシック金融入門』日本経済新聞出版社(日経文庫)、安達智彦+武蔵大学金融学科『金融の基本』日本実業出版社、家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ』中央経済社、岩崎博充『手こたうように銀行がわかる本』かんき出版、株式フォーラム21『手こたうように株・証券がわかる本』かんき出版、森宮康『保険の基本 新版』日経文庫		
授業スケジュール	第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：金融とは何か — お金が果たす役割、金融という機能とは？ 第2回 銀行の役割 (1)：資金決済の仕組み、内国為替と外国為替、全銀システムと銀行間決済 第3回 銀行の役割 (2)：銀行の業務(預金と貸付)、銀行の収益構造、信用創造メカニズム 第4回 証券会社の役割 (1)：証券(株式・債券)の仕組み、証券発行市場、証券流通市場 第5回 証券会社の役割 (2)：ブローカー業務、アンダーライティング業務、セリング業務、ディーラー業務 第6回 保険会社の役割 (1)：保険の原理と機能、生命保険と損害保険 第7回 保険会社の役割 (2)：間接金融の主体としての役割、機関投資家としての役割 第8回 その他の金融機関：信託銀行、投資信託会社、消費者金融会社、クレジットカード会社など 第9回 短期金融市場と外国為替市場：金融機関同士が取引する市場の仕組みと機能、市場金利、市場為替レート 第10回 金利とは何か：利息、利率・利回り、金利はどうやって決まるのか、割引現在価値とは 第11回 日本銀行と金融政策：日本銀行の金融調節、金融引き締め・金融緩和、量的緩和政策 第12回 金融システムの安定化のための政策 (1)：銀行に対する規制、預金者保護の制度 第13回 金融システムの安定化のための政策 (2)：証券会社・保険会社に対する規制、投資家や保険契約者保護の制度 第14回 バブル経済崩壊と世界金融危機：日本のバブル経済と崩壊、世界金融危機などのように起こったか 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	法学的特講	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「家族の法」、ライフスタイルの多様化によって家族に関する法はどのように変化しているのか</p> <p>【概要】社会の急激な変化が起こるとき、必ずといっていいほど家族法の大改革が行われてきた。すなわち、社会と家族と家族法とは密接に連動しながら変化している。先進国では、戦後の高度経済成長による社会と家族の変化に対応して、制度の拘束を緩め(脱制度化)、当事者の自由な意思によって多様な家族関係の形成を認める(契約化)方向で、ほとんど例外なく家族法の大改正を経験してきた。これに対し、日本では、戦後の家族法大改革以降、家族法はそれほど大きな改正を受けることなく安定性を示してきた。しかし、その日本でも、1970年代後半以降、経済の低成長時代に入ってから、社会と家族の大きな変化を痛切に感じるようになった。</p> <p>【到達目標】戦後、日本国憲法制定に伴う家族法大改革によって制定された家族法は、なぜ大きな改革をすることなく社会に適応してきたのか。中核となる民法の家族法の全体像と、現在、どのような家族法の改革が要請されているのかを理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 利谷信義『家族の法』(有斐閣) (2) 講義時に指定する。		
授業スケジュール	第1回 家族の法を考える：「家族法」とは何か 第2回 現代家族を保障してきた現行家族法：戦後・家族法の主な改正点 第3回 家庭裁判所の役割：現行家族法の柔軟性 第4回 現行家族法の役割と問題点—国際的な人権確立の動きと家族法改正への動き 第5回 法的に見た結婚(1) 結婚をめぐる社会の動きと日本の婚姻制度 第6回 法的に見た結婚(2) 結婚と財産 第7回 離婚制度(1)：日本の離婚制度の概要と特色 第8回 離婚制度(2)：協議離婚と調停・審判離婚、裁判離婚 第9回 離婚後の生活(1)：子どもと財産 第10回 離婚後の生活(2)： 第11回 親子と法(1) 夫婦と親子の違い 第12回 親子と法(2) 内縁と認知 第13回 相続法の全体の仕組み 第14回 相続をめぐる意識と法 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(70点) + 授業ごとに書いてもらう小レポート(30点)		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	臼谷 健一
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業における諸取引と決算の処理について学習する。</p> <p>【概要】 やや複雑な取引の処理、決算に必要な処理を学習し、「簿記論Ⅰ」で学習した簿記一巡の手続きと合わせて損益計算書や貸借対照表といった財務諸表の作成方法を学習する。なお、簿記の知識・理論の勉強とともに、多くの問題にあたることによって定着するため、毎回の講義で問題演習を課す。</p> <p>【到達目標】 日商簿記検定3級程度の仕訳・財務諸表の作成方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記 3級商業簿記』税務経理協会 (1) 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会		
授業スケジュール	第1回 「簿記論Ⅰ」の復習 第2回 売掛金と買掛金 (掛取引、売掛金元帳、買掛金元帳) 第3回 その他の債権・債務 (売掛金・買掛金を除く債権・債務) 第4回 手形取引① (約束手形、為替手形、手形の裏書・売却) 第5回 手形取引② (手形貸付金・手形借入金、手形記入帳) 第6回 貸倒損失と貸倒引当金 (貸倒れ、貸倒引当金) 第7回 売買目的有価証券 (売買目的有価証券の取得・売却・期末評価) 第8回 固定資産 (固定資産の取得・売却・減価償却) 第9回 費用・収益の繰延べと見越し (前払費用・未受収益、未払費用・未収収益) 第10回 消耗品の会計処理、資本と税金 (消耗品・消耗品費、引出金、租税公課) 第11回 試算表② (やや複雑な試算表、売掛金明細票・買掛金明細票) 第12回 8桁精算表 (決算整理事項、期末修正事項) 第13回 帳簿決算 (元帳の締め切り、損益計算書・貸借対照表の作成) 第14回 帳簿と伝票 (3伝票制・5伝票制) 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進度によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化</p> <p>第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド</p> <p>第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU</p> <p>第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界</p> <p>第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーン化の進展</p> <p>第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～</p> <p>第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道創設引き：JITからJISへの進化と負担転嫁</p> <p>第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業</p> <p>第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界</p> <p>第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS</p> <p>第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS</p> <p>第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS</p> <p>第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ</p> <p>第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に出入りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか？TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概観する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 アジアとヨーロッパ：統合に向かう成長と統合による成長</p> <p>第2回 アジア経済への道（1）：経済統合の5段階</p> <p>第3回 同上（2）：TPPによる完全自由化への道</p> <p>第4回 同上（3）：東アジア共同体による保護を残した自由化への道</p> <p>第5回 中国経済（1）：経済規模で日本を追い抜いた中国経済</p> <p>第6回 同上（2）：社会主義を目指す資本主義</p> <p>第7回 同上（3）：アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国～改革開放30年の成果～</p> <p>第8回 インド経済（1）：インドの概況</p> <p>第9回 同上（2）：植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化</p> <p>第10回 同上（3）：民族資本として成長するTATA</p> <p>第11回 東南アジアの経済（1）：タイとインドネシア</p> <p>第12回 同上（2）：マレーシア、フィリピン、ベトナム</p> <p>第13回 アジアの未来（1）：中国、インド、日本の役割</p> <p>第14回 同上（2）：アジア共同体への展望</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：環境問題、人権、予防外交</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：9.11以後の世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	試験によって評価する。(100%)		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】国際的視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 文化・異文化とは？</p> <p>第3回 コミュニケーションとは？</p> <p>第4回 言語・非言語コミュニケーション1</p> <p>第5回 言語・非言語コミュニケーション2</p> <p>第6回 言語・非言語コミュニケーション3</p> <p>第7回 ステレオタイプと偏見</p> <p>第8回 価値観</p> <p>第9回 文化・文明の衝突</p> <p>第10回 異文化の理解</p> <p>第11回 カルチャーショックと異文化適応</p> <p>第12回 翻訳と通訳</p> <p>第13回 異文化コミュニケーションの方法</p> <p>第14回 多文化共生</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度(40%)、筆記試験(60%)		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 東アジア, 東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】 アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては、植民地化や日本占領期という共通の時代性が、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近「東アジア共同体」ということがしきりに叫ばれている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2：植民地のようす 第5回 歴史的形成3：脱植民地化、国民国家建設、開発 第6回 歴史的形成4：冷戦下のアジア 第7回 東南アジア1：インドシナ三国 第8回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響 第9回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア 第10回 東南アジア4：メコン河流域開発 第11回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成 第12回 アジアにおける協力体制1：「東アジア共同体」について 第13回 アジアにおける協力体制2：「東アジア共同体」と日本 第14回 アジアにおける協力体制3：「東アジア共同体」の展望 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する。(100%)		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ヨーロッパの現状を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ(EU)がもたらす世界経済への影響や欧州統合での課題を考察する。</p> <p>【概要】</p> <p>ヨーロッパの地域統合(EU)から通貨統合およびその後の金融財政危機に至る過程に重点を置き、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に平成23年度(2011年度)は国際経済危機後の経済状況が深刻化しており、EUにおける雇用や財政問題・環境・エネルギー問題への対処を米国や日本と比較し、将来への展望を全員で意見交換する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ヨーロッパの地域統合(EU)の拡大と深化の現状と課題を学び、日本や東アジアまた地域経済の抱える課題解決の糸口を見出す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ および講師作成プリント (2) 原輝史『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣		
授業スケジュール	第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか 第2回 ヨーロッパ産業資本の形成 第3回 ヨーロッパ統合の歴史 第4回 統一通貨ユーロとは 第5回 国際金融危機とEU財政諸問題 第6回 EU社会が抱える課題 第7回 イギリスとEU経済 第8回 フランスとEU経済 第9回 ドイツとEU経済 第10回 その他諸国とEU経済 第11回 EUと東欧・ロシアとの現状 第12回 EUと自由貿易協定(FTA) 第13回 欧州通貨と国際金融システム 第14回 ヨーロッパ社会と統合の将来 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 出席点(20%)		

授業科目	国際経済特講	担当者	梅 允中
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ及び概要】 経済のグローバル化の進展は著しく、消費者のニーズも多様化していることによって、貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで、これからは、輸出入取引の仕組みや外国為替、貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。この講義では、貿易実務について広く習得し、貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また、貿易実務を学習しながら、貿易英語も勉強します。</p> <p>【到達目標】 貿易実務担当者レベル</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	最新版 貿易実務 ハンドブック 日本貿易実務検定協会 編 発行所 中央書院		
授業スケジュール	<p>第1回～第4回 輸入編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易とは、規制の確認、インコタームズ、輸入の流れ ・輸入採算、契約、海上貨物保険 ・決済方法、通関、貨物引取り <p>第5回～第8回 輸出編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出採算、輸出流れ、輸出信用状、輸出書類作成 <p>第9回～第10回 外国為替編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国為替の仕組み、為替リスク、外国為替と銀行取引 <p>第11回 貨物海上保険</p> <p>第12回 通関と関税</p> <p>第13回 仲介貿易</p> <p>第14回 貿易実例紹介</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	期末試験の成績（70％）に授業での発言内容及び予習の状況（30％）を加味する。		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 離島・半島など条件不利地域において（鹿児島県としてその例外ではなく、むしろ多く抱える）、どのような問題を抱え、どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいかを、事例分析を通して、多角的に解析し、考察していく。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて、それに対する政策的処方箋を導出するなど、地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	<p>第1回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論</p> <p>第2回 内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展</p> <p>第3回 地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題</p> <p>第4回 農山漁村地域の活性化 実態編（1）：農山村地域での地域づくりとその手法</p> <p>第5回 農山漁村地域の活性化 実態編（2）：漁村地域での地域づくりとその手法</p> <p>第6回 資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織</p> <p>第7回 里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト</p> <p>第8回 第一次産業の担い手問題：後継者対策とU・Iターン者</p> <p>第9回 地域リーダー論：地域リーダーの特徴、育成、そして役割</p> <p>第10回 経営組織論：地域づくりと経営組織形態</p> <p>第11回 農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック</p> <p>第12回 農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み</p> <p>第13回 地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ</p> <p>第14回 農山漁村地域再生への道標：事業開発への挑戦と生活文化の再生</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40％)+期末試験（60％）		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の再建と地域社会の再生</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と生活文化の再生 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)+期末試験(60%)		

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方自治, 地方行財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて、地方自治に関する基本的な理論や制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 地方自治に関する基本的な理論、そして日本の地方自治に関する制度やその課題について理解を深め、地方自治、地方行財政について、自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：地方自治とは何か、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方自治体の意思決定(1)：役所と議会の関係、国と地方自治体の関係等 第 4回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等 第 5回 地方自治体の財源(1)：三位一体の改革、地方債等 第 6回 地方自治体の財源(2)：地方財政健全化法について等 第 7回 地方自治体の財源(3)：地方交付税、国庫支出金等 第 8回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等 第 9回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、可能性と問題点等 第 10回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等 第 11回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、藤沢市の事例等 第 12回 非営利組織：アメリカの非営利開発法人の事例等 第 13回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	労働法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい労働）」とは何か</p> <p>【概要】1919年に国際労働機関（ILO）が結成されて以来、「人間らしい労働」の実現はその基本理念だった。そのILO発展の歴史を概観しながら、国際社会の中で日本がどのような対応をしてきたか。設立90周年になるILOが、現在、あえて「ディーセント・ワーク」をスローガンとして掲げているのはなぜなのか。日本の労働法の発展と現在を、国際社会の中に位置づける。</p> <p>【到達目標】グローバル化する社会の中で、労働の分野で「規制緩和」とはどのような意味をもち、どのような結果をもたらしているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 資料を配布する。 (2) 講義時に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 労働法前史：山本茂実『ああ野麦峠—ある製糸女工哀史』を読む 第2回 国際労働機関ILOの発展史 第3回 労働法とは：日本国憲法で保障された労働者の権利と労働法 第4回 労働基準法の目的と内容：労働基準法の概要と法の実効性を確保する方法 第5回 労働契約のルール：労働契約上の権利・義務 第6回 労働時間のルール：労働時間・時間外労働・割増賃金 第7回 休憩・休日のルール 第8回 労働時間規制の弾力化は何かをもたらしたか 第9回 女性雇用のルール：男女同一賃金の原則から男女雇用機会均等法制定まで 第10回 母性保護規定、育児・介護休業法、アフターマティブ・アクション 第11回 労働安全衛生と労災補償：過労死、パワー・ハラスメント 第12回 労働契約の終了：契約解除の自由と解雇制限、非正規雇用と雇い止め 第13回 竹信恵美子『ルボ雇用劣化不況』を読む 第14回 労働は商品ではない：労働の人間化とディーセント・ワーク 第15回 予備日		
成績評価の方法	レポート（60点）＋ 毎回の講義終了時に提出してもらおう小レポート（40点）		

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差 第3回 世界の現状2：グローバリゼーションの進展 第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について 第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略 第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関 第7回 国際機関による援助2：構造調整政策について 第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて（1） 第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて（2） 第10回 企業による社会活動：CSRを中心に 第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動（1） 第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動（2） 第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動（3） 第14回 人間の安全保障 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験によって評価する。（100%）		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的観点から考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義 第2回 地方公共団体の種類 第3回 地方公共団体の区域・事務 第4回 住民の権利義務(1) 第5回 住民の権利義務(2) 第6回 条例(1) 第7回 条例(2) 第8回 議会(1) 第9回 議会(2) 第10回 執行機関(1) 第11回 執行機関(2) 第12回 議会と長との関係 第13回 地方公共団体と国の関係 第14回 予算 第15回 まとめと試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治、団体自治、伝来説、固有権説、地方自治の本旨について ・地方公共団体の構成要素、都道府県、市町村について、 ・区域、機関委任事務、法手受託事務について ・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について ・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について ・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について ・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について ・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について ・定例会、臨時会、議会の運営、定足数の原則、過半数議決の原則について ・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について ・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について ・再議制度、専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散について ・国の関与の手続、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について ・予算事前議決の原則、予算公開の原則、予算単一主義の原則について 		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言の記録（10%）を基準に、総合的に評価する。		

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ(経営情報専攻)	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式(黒板とパワーポイントの併用)		
テーマ及び概要	【テーマ】 複式簿記と財務諸表 【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学修した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。 【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版, 2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版, 2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス:履修登録確認, コース・パケット配布, 諸取引1:現金・現金過不足 第2回 諸取引2:当座・小口現金 第3回 諸取引3:商品売買取引(3分法) 第4回 諸取引4:掛取引 第5回 諸取引5:手形取引1 第6回 諸取引6:手形取引2 第7回 諸取引7:その他の債券, 債務 第8回 復習, 小テスト1 第9回 諸取引8:売買目的有価証券 第10回 諸取引9:固定資産 第11回 諸取引10:資本金と税金 第12回 諸取引11:決算整理1 第13回 諸取引12:決算整理2 第14回 諸取引13:伝票 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況(20%), および最終試験(80%)で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 経営情報専攻(宗田)と経済専攻(臼谷)とは、別クラスです。

(注2) 2011年度の経営情報専攻の簿記論Ⅰは前期に開講されます。簿記論Ⅱを履修する学生は、必ずセットで簿記論Ⅰの履修登録を行ってください。

(注3) 2010年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も2011年度に簿記論Ⅱを履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

(注4) 後期に開講される、財務会計論、コンピュータ会計を履修する予定の学生は、必ず、簿記論Ⅰ, Ⅱを履修してください。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。 したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部にいる関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。 【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要の説明:今後の講義の概要について説明する 第2回 経営学と経済学の違い:経営学と経済学の考え方の違いについて説明する 第3回 経営学の発展と必要性:経営学の必要性について説明する 第4回 株式会社の特徴とは何か:株式会社の特徴について説明する 第5回 組織と個人の関わり方:組織と個人の関わり方について、企業文化等を通して考える 第6回 組織内での人の動かし方:組織における人間観について 第7回 人はなぜ働くのか:人はなぜ働くのかを考える 第8回 日本の経営を考える:日本の経営を説明する 第9回 成果主義とはどのような制度か:成果主義の考え方を説明する 第10回 組織構造とそのポジション(1):組織構造の仕組みについて説明する 第11回 組織構造とそのポジション(2):組織構造の問題点について説明する 第12回 経営管理と経営戦略:経営管理と経営戦略の考え方の違いについて説明する 第13回 企業は誰のものか:企業は誰のものか考える 第14回 経営者の役割とは何か:経営者の役割を考える 第15回 まとめと試験:まとめと試験を行う		
成績評価の方法	前期筆記試験(70%), 授業でのレポート(30%) (予定) 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	比較経営論	担当者	瀬口 毅士
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営システムの多様性を知ろう</p> <p>【概要】この授業では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行う。まずは日本の経営システムを理解した後、欧米・アジア各国の経営システムを取り上げる。</p> <p>【到達目標】各国の歴史、政治、経済、地理、などによって、経営のあり方が異なることを知る。また、経営システムの多様性や経路依存性が存在することを理解すること、を目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や経営比較の視点について解説する。</p> <p>第2回 日本の経営（1）：日本企業の概要、歴史、統治構造などについて解説する。</p> <p>第3回 日本の経営（2）：日本企業について、戦略や組織の側面から検討する。</p> <p>第4回 日本の経営（3）：日本企業の生産方式、労使関係などについて講義する。</p> <p>第5回 アメリカの経営（1）：アメリカ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第6回 アメリカの経営（2）：アメリカ企業の経営について、戦略、組織、生産、労働、などの側面から検討する。</p> <p>第7回 イギリスの経営（1）：イギリス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第8回 イギリスの経営（2）：イギリスのなかでも、特に工場労働における労使関係を取り上げ、説明する。</p> <p>第9回 フランスの経営：フランス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第10回 ドイツの経営：ドイツ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第11回 中国の経営：中国企業を取り巻く環境の変化や統治構造、経営システムの特質について講義する。</p> <p>第12回 韓国の経営：韓国企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第13回 その他の国々の経営：第12回までに取り上げなかった国々の経営システムについて講義する。</p> <p>第14回 グローバル競争：これまで見てきた国々が、グローバル市場という同じ舞台上、どのようにしのぎを削っているかを見る。</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

授業科目	経営分析	担当者	臼谷 健一
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営を診断、分析するために必要な各指標について学習する。</p> <p>【概要】実在する企業の、財務諸表やその他のデータを用いながら、財務諸表の読みかたや、企業の安全性・収益性・成長性を分析するために必要な指標について学習する。</p> <p>【到達目標】各種の指標の意味について理解し、それらの指標を用いて企業の経営状態を分析できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 佐藤裕一『ビジュアル 経営分析の基本』日本経済新聞社、プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス、経営分析の基礎①（目的、情報の入手）</p> <p>第2回 経営分析の基礎②（貸借対照表）</p> <p>第3回 経営分析の基礎③（損益計算書）</p> <p>第4回 経営分析の基礎④（連結決算）</p> <p>第5回 安全性分析①（他人資本、自己資本）</p> <p>第6回 安全性分析②（キャッシュフロー）</p> <p>第7回 安全性分析③（資本回転率）</p> <p>第8回 収益性分析①（売上高利益率）</p> <p>第9回 収益性分析②（資本利益率）</p> <p>第10回 収益性分析③（付加価値）</p> <p>第11回 成長性分析①（売上高伸び率、利益伸び率）</p> <p>第12回 成長性分析②（配当性向）</p> <p>第13回 総合分析①（1株あたり純資産、1株あたり純利益）</p> <p>第14回 総合分析②（その他の評価項目）</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> <p>(※ 講義の進度によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	期末レポート（100%）		

授業科目	企業行動科学	担当者	竹中 啓之
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える</p> <p>【概要】行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために、一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかにも、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。</p> <p>【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に触れる。主要な動機づけ理論を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する 第2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第3回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第4回 集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第5回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第6回 意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第7回 組織文化が意思決定に与える影響：組織文化が意思決定に与える影響を考える 第8回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する 第9回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点について説明する 第10回 リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する 第11回 リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する 第12回 上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する 第13回 上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第14回 卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	経営戦略論	担当者	竹中 啓之
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略の基本的な考え方を説明し、実際に行われている企業活動との関わりを考える</p> <p>【概要】経営戦略とは、企業全体の活動を視野に入れた「企業戦略」と、より具体的な競争戦略を実行する「事業戦略」に大きく分けることができる。この講義では、まず時代と共に戦略論がどのように変化してきたかを概観し、「企業戦略」の重要性について考える。次に、競争に勝ち抜くためのより具体的な「事業戦略」についていくつかの視点を取り上げ、多様な競争に勝ち抜く方法を考えていく。また、実際の企業がこのような戦略をどのように捉え、活用しているのかについても調べていくことにする。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の概要を理解する。「企業戦略」の重要性を知る。多様な競争戦略の方法を知る。実際の企業戦略について触れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義の概要：講義の概要を説明する 第2回 経営戦略の概念：経営戦略の全般的な考え方を説明する 第3回 企業戦略とはどのようなものか（1）：企業戦略とはどのようなものかを考える 第4回 企業戦略とはどのようなものか（2）：企業戦略を考える意味を説明する 第5回 企業ドメイン(事業領域)の戦略（1）：企業ドメインの考え方について説明する 第6回 企業ドメイン(事業領域)の戦略（2）：企業ドメインの問題点について説明する 第7回 経営戦略と経営資源（1）：経営資源と経営戦略の考え方について説明する 第8回 経営戦略と経営資源（2）：経営資源の考え方を応用した経営戦略を考える 第9回 事業戦略・競争戦略：創発戦略・学習アプローチについて考える 第10回 具体的な競争戦略（1）：競争戦略について考える 第11回 具体的な競争戦略（2）：競争戦略の類型について考える 第12回 相手にしない戦略一反撃を予想した戦略：競争しない競争戦略と考える 第13回 実際の企業における競争戦略を考える：具体的な企業の戦略例を説明する 第14回 新規創設戦略：新規創設戦略について考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う		
成績評価の方法	後期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p>【概要】 世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。このような企業が常に勝ち組みになる方策の一つが、市場万能主義をとる新自由主義の発想の根底にありました。ところが、これらの企業の暴走がバブル崩壊・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような自体になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前期開講の社会政策の講義が参考になります。</p> <p>【到達目標】 日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) とくに定めなし。</p> <p>(2) 丸山恵也『批判経営学』-学生・市民と働く人のために</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 : オリエンテーション</p> <p>第2回 資本主義と企業 : 資本主義的企業経営の原理をとらえる</p> <p>第3回 競争と機械化 : 生産性向上競争と企業巨大化の原理をとらえる</p> <p>第4回 蓄積と制限 : 資本蓄積の法則を理解する</p> <p>第5回 合理化投資 : 資本蓄積のための合理化投資の必然性と資本主義的人口法則をとらえる</p> <p>第6回 利潤と競争 : 企業利潤の理解と、特別利潤の形成原理を理解する</p> <p>第7回 商業資本 : 資本主義的商業資本の形成とその展開、制限を理解する</p> <p>第8回 利子生み資本 : 利子生み資本の基本原則を理解する</p> <p>第9回 銀行と信用、株式会社 : 銀行資本と株式資本を理解する。</p> <p>第10回 独占資本の形成と企業集団 : 独占の法則をとらえる</p> <p>第11回 企業集団と国家 : 企業集団の形成と企業集団と国家との連携を理解する</p> <p>第12回 日本資本主義の特徴 : 日本資本主義の社会構造と、その下での企業の運動をとらえる</p> <p>第13回 戦後日本資本主義と企業社会の形成 : 「日本的経営」の特徴を理解する</p> <p>第14回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開 : グローバル化の下での企業の多国籍化、国内での柔軟化をとらえる。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	論述試験 (100%)		

授業科目	財務会計論	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1, 2年		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の企業会計制度とその役割</p> <p>【概要】 本年度の財務会計論では、会計学を初めて学ぶ学生を対象として、制度会計の領域に関して講義を行います。財務会計論は、会計関連科目の基礎をなす科目です。企業の活動状況を財務情報に集約して適切に利害関係者に伝達したり、企業の公表する財務諸表を理解したりするためには、会計学の知識が不可欠となります。本講義では、制度会計(会社法会計と金融商品取引法会計)を中心として学習するとともに、財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。</p> <p>【到達目標】 財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 片山覚他『入門会計学』実教出版、2009年。</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、会計って何？</p> <p>第2回 会計と複式簿記：会計の定義・領域、複式簿記</p> <p>第3回 会計情報の利用者：利害関係者、会計のグローバル化</p> <p>第4回 会計情報の開示：制度会計、ディスクロージャー制度</p> <p>第5回 財務諸表1：財務諸表の体系</p> <p>第6回 財務諸表2：貸借対照表1</p> <p>第7回 財務諸表3：貸借対照表2</p> <p>第8回 財務諸表4：貸借対照表3</p> <p>第9回 財務諸表5：損益計算書1</p> <p>第10回 財務諸表6：損益計算書2</p> <p>第11回 財務諸表7：キャッシュ・フロー計算書1</p> <p>第12回 財務諸表8：キャッシュ・フロー計算書2</p> <p>第13回 財務諸表9：株主資本変動計算書1</p> <p>第14回 財務諸表10：株主資本変動計算書2</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>講義への参加度 (発言や質問など) (5%) 期末試験 (95%) で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

(注1) 簿記論 I, II を履修済みであることを前提に講義を行います。

(注2) 後期に開講予定のコンピュータ会計を履修する予定の学生は、この財務会計論を履修してください。

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 マーケティングを体系的に学ぶ</p> <p>【概要】 マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。この授業では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義していく。</p> <p>【到達目標】 マーケティングについて理解してもらい、消費者としての視点および販売者としての視点を養ってもらう。すなわち、消費者として、購買してもらうために企業はどのようなマーケティングを行っているのかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客にモノやサービスを売るためには、いかなる努力が必要かを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方を説明し、マーケティングの概要を解説する。</p> <p>第2回 マーケティングの誕生と基本概念：マーケティングの原点および押えておくべき基本概念を説明する。</p> <p>第3回 標的市場の選択：STPの概念を用いて、いかに標的市場を選定するのかについて講義する。</p> <p>第4回 市場・消費者行動分析：市場や消費者を分析するために何が必要か、具体的にどのような方法があるのかについて講義する。</p> <p>第5回 競争分析：ポーターやコトラーの戦略論を解説し、いかにマーケティング上の優位性を追求していくかを講義する。</p> <p>第6回 製品戦略：製品差別化戦略や製品ライフサイクル、製品開発プロセス、などを中心に解説する。</p> <p>第7回 価格戦略：価格設定の重要性とそれを戦略的に行う方法について説明する。</p> <p>第8回 プロモーション戦略：プロモーションの手段、およびそれらを組み合わせるプロモーション・ミックスについて説明する。</p> <p>第9回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択の方法について説明する。</p> <p>第10回 ブランド戦略：強いブランドを築くことの重要性と、そのようなブランドを築くための基本戦略について解説する。</p> <p>第11回 経験価値マーケティング：代表的な事例を用いて、消費者の経験を演出する様々な方法を考えてもらう。</p> <p>第12回 関係性マーケティング：企業と消費者の相互関係のあり方と、両者の相互関係を通じた長期的関係の構築について見ていく。</p> <p>第13回 グローバル・マーケティング：国際的にマーケティングを展開する際、いかなる要素を考慮すべきかについて考えてもらう。</p> <p>第14回 ソーシャル・マーケティング：マーケティングにおける社会的責任について講義する。</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

授業科目	経営工学	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可能 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：経営工学とは</p> <p>第2回 投資計画：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第3回 需要予測：過去のデータから未来を予測する</p> <p>第4回 生産スケジューリング：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第5回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第6回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第7回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいいすれば良いのか</p> <p>第8回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第9回 生産管理：トヨタ生産方式を中心とする生産管理</p> <p>第10回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第11回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第12回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第13回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第14回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	コンピュータ会計	担当者	宗田 健一
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式 (一部、講義方式を含む。基本的なパソコン教室での講義。)	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p>【概要】 この科目では、簿記一巡の手続きに関して理解しており、財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また、分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト(エクセル)の使用を予定していますので、エクセルの基本的な操作に関して説明します。</p> <p>上記の初歩的な説明を行った後、講義の後半では、各種分析手法(成長性、収益性、安全性)について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』(通称: EDINET (Electronic Disclosure for Investors' Network))を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い、その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 片山覚他『入門会計学』実教出版、2009年。</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス:履修登録確認、コース・パケット配布、会計の全体像</p> <p>第2回 会計情報の利用者:利害関係者、会計情報の入手方法(EDINETの使い方)</p> <p>第3回 有価証券報告書:全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 財務諸表分析1:財務諸表分析とは、分析の視点</p> <p>第5回 財務諸表分析2:安全性分析1</p> <p>第6回 財務諸表分析3:安全性分析2</p> <p>第7回 財務諸表分析4:収益性分析1</p> <p>第8回 財務諸表分析5:収益性分析2</p> <p>第9回 財務諸表分析6:成長性分析3</p> <p>第10回 財務諸表分析7:キャッシュ・フロー分析1</p> <p>第11回 財務諸表分析8:キャッシュ・フロー分析2</p> <p>第12回 財務諸表分析9:その他の分析項目</p> <p>第13回 時系列分析(2社以上)</p> <p>第14回 同業他社比較分析(2社以上)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>講義での発言内容、講義(毎回ではないが)で作成した資料(40%)、および期末レポート(60%)で評価する。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。</p>		

(注1) 簿記論I, IIを履修済みであることを前提に講義を行います。

(注2) コンピュータ会計を履修する予定の学生は、財務会計論を履修してください。

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可能 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のAccessの操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトのAccessを利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『30時間でマスター Access2007』, 実教出版</p> <p>(2) きたみあきこ, 『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論:リレーショナルデータベースの概念</p> <p>第2回 Accessの操作: Accessとは</p> <p>第3回 Accessの操作:レコードの並べ替え</p> <p>第4回 Accessの操作:レコードの追加</p> <p>第5回 Accessの操作:フォームの作成</p> <p>第6回 Accessの操作:選択クエリの作成</p> <p>第7回 Accessの操作:さまざまなクエリ</p> <p>第8回 Accessの操作:データベースの設計</p> <p>第9回 Accessの操作:リレーションシップの作成</p> <p>第10回 Accessの操作:レポートの作成</p> <p>第11回 Accessの操作:レポートのアレンジ</p> <p>第12回 Accessの操作:マクロの利用</p> <p>第13回 総合演習</p> <p>第14回 総合演習</p> <p>第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	<p>講義中の小テスト(40%) + 課題(60%)</p>		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 立山秀利, 『ExcelVBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 マクロ：マクロの登録と実行 第 3 回 エディタ：VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第 4 回 VBA の利用：プロシージャ 第 5 回 VBA の利用：オブジェクト 第 6 回 VBA の利用：セルの操作 第 7 回 VBA の利用：演算子 第 8 回 VBA の利用：条件分岐 第 9 回 VBA の利用：繰り返し処理 第 10 回 VBA の利用：変数の利用 第 11 回 VBA の利用：関数の作成 第 12 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 第 13 回 総合演習 第 14 回 総合演習 第 15 回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	情報論特講	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可能 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報技術やその役割について</p> <p>【概要】 現代において、コンピュータやネットワークからなる情報システムは、各種業務を迅速に行う上で必要不可欠なものとなっており、データ分析やシミュレーションなど様々な意思決定の場でも用いられることが多い。この講義では、コンピュータやネットワークに関する基本的な事柄、コンピュータを用いた意思決定方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 情報技術の基本的な事柄を学び、それらが実社会でどのように役に立っているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：講義の概要 第 2 回 情報技術の進化：コンピュータやインターネットの歴史 第 3 回 コンピュータの仕組み 1：ハードウェア 第 4 回 コンピュータの仕組み 2：ソフトウェア 第 5 回 ネットワーク技術 1：インターネットの概要 第 6 回 ネットワーク技術 2：インターネットのプロトコル 第 7 回 コンピュータの利用：データベースとプログラミング 第 8 回 情報セキュリティ 1：共通鍵暗号 第 9 回 情報セキュリティ 2：公開鍵暗号 第 10 回 シミュレーション 1：シミュレーションとは 第 11 回 シミュレーション 2：簡単なシミュレーションを体験する 第 12 回 意思決定 1：意思決定とは 第 13 回 意思決定 2：エクセルのソルバーの利用 第 14 回 データ分析：エクセルのデータ分析の利用 第 15 回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

18 商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	学科教員全員
<p>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか？</p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものから出発して、自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p>③「演習」系科目の受講の流れ</p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p>			
<p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」</p>			
<p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>3年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</p>			
<p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p>⑤成績評価の方法</p>			
<p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p>⑥受講登録上の注意</p>			
<p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		